

2022年3月期 第2四半期決算の概況



2021年10月26日(火)
モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉 智也

連結決算の概況

連結業績

売上高は10期連続の増収、5期連続で過去最高の売上高
 経常利益は12期連続の増益、10期連続の最高益
 当期利益は12期連続の増益、7期連続の最高益

(単位:百万円)

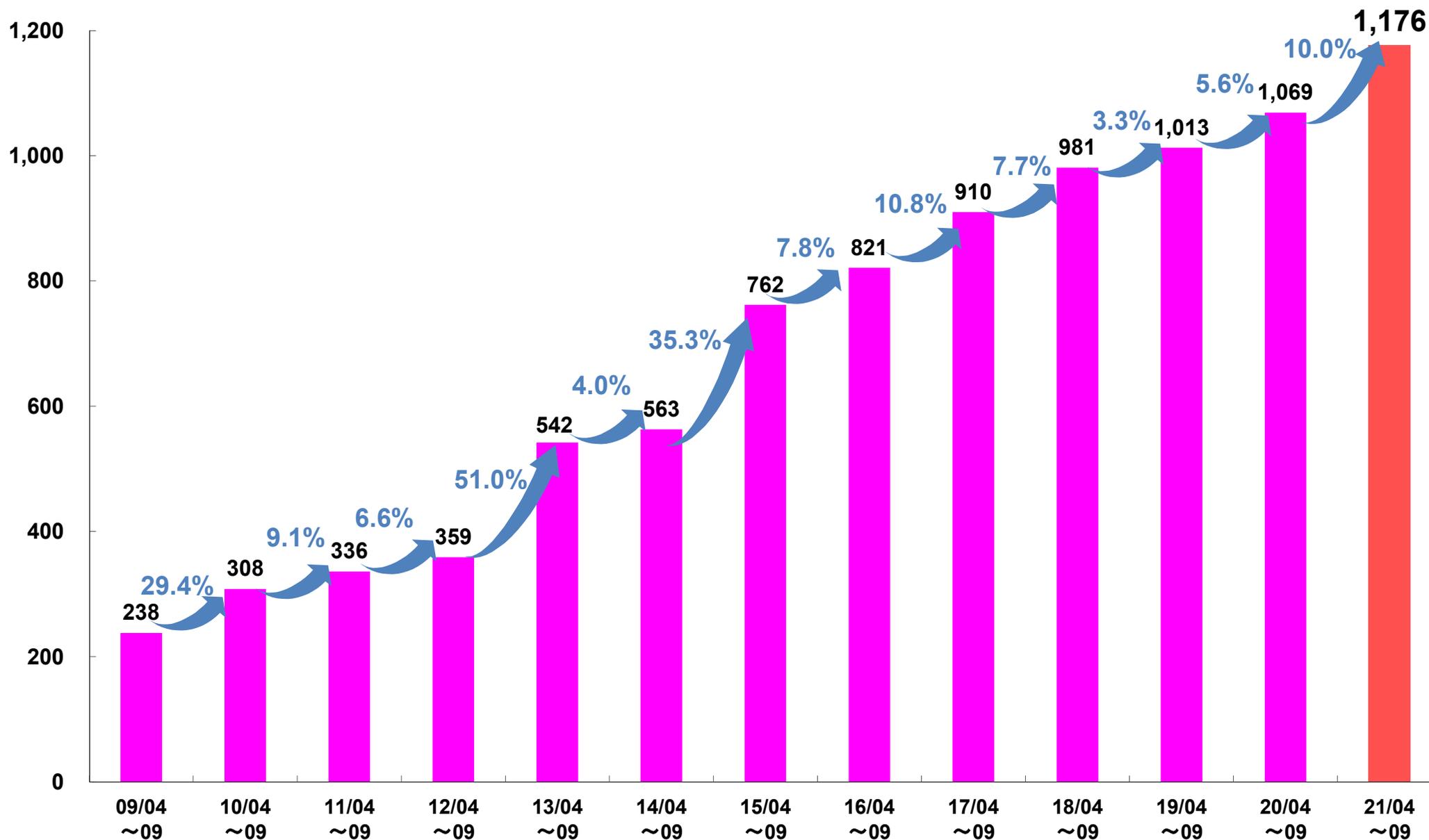
	2021年3月期 第2四半期 (2020年4月～9月)	2022年3月期 第2四半期 (2021年4月～9月)	増減率 (%)
売上高	3,615	3,937	8.9
営業利益	872	993	13.9
経常利益	1,069	1,176	10.0
当期利益	696	724	3.9

※当期利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を意味する。

連結経常利益の推移

12期連続の増益、10期連続の過去最高益を更新

(単位:百万円)



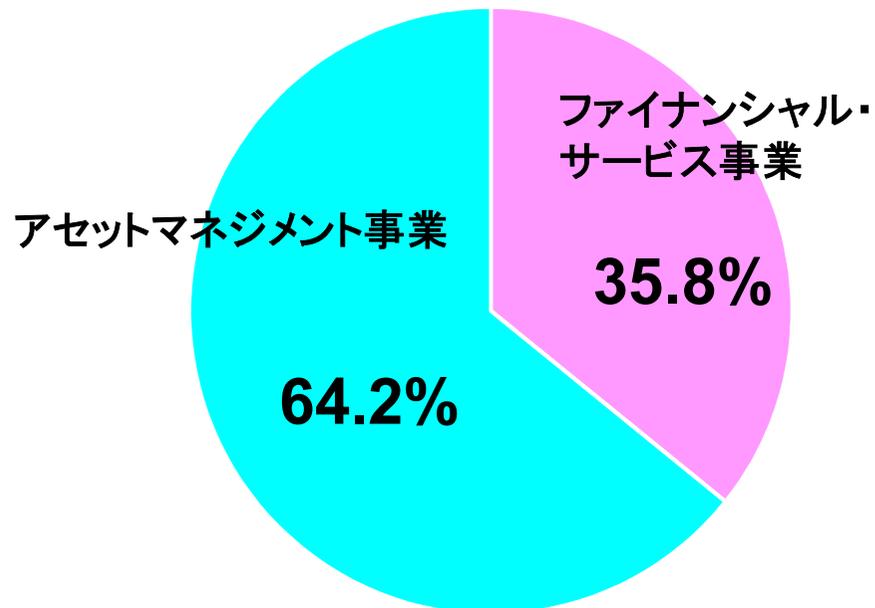
主なサービス/プロダクト別の売上高の増減

(単位:百万円)

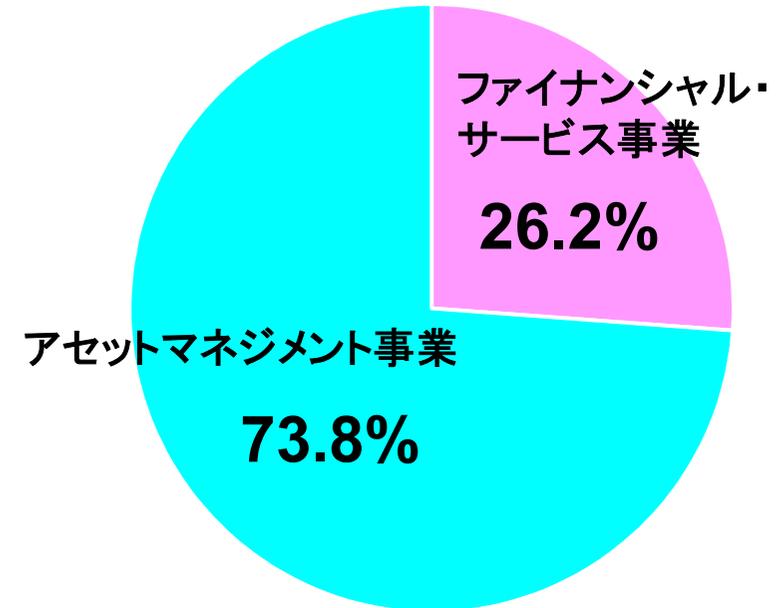
セグメント	サービス/プロダクト	2021年3月期 第2四半期 (2020年4月～9月)	2022年3月期 第2四半期 (2021年4月～9月)	増減率 (%)
ファイナンシャル・ サービス事業 (データ・ソリューション)	ファンドデータ (タブレット端末向けのデータ)	244	296	21.3
	(スマートフォン、PC向けのデータ)	391	458	17.1
	株式新聞WEB購読料	23	37	60.9
ファイナンシャル・ サービス事業 (メディア・ソリューション)	メディア・ソリューション (セミナー関連)	146	141	-3.4
	(WEB広告)	35	18	-48.6
アセットマネジメント事業 (運用受託報酬)	SBIアセットマネジメント	1,066	1,235	15.9
	SBI債券・インベストメント・マネジメント	450	595	32.2
	SBI地方創生アセットマネジメント	241	445	84.6
	Carret Asset Management	552	623	12.7

セグメント別の売上高の構成比

＜2021年3月期第2四半期＞
連結売上高：3,615百万円



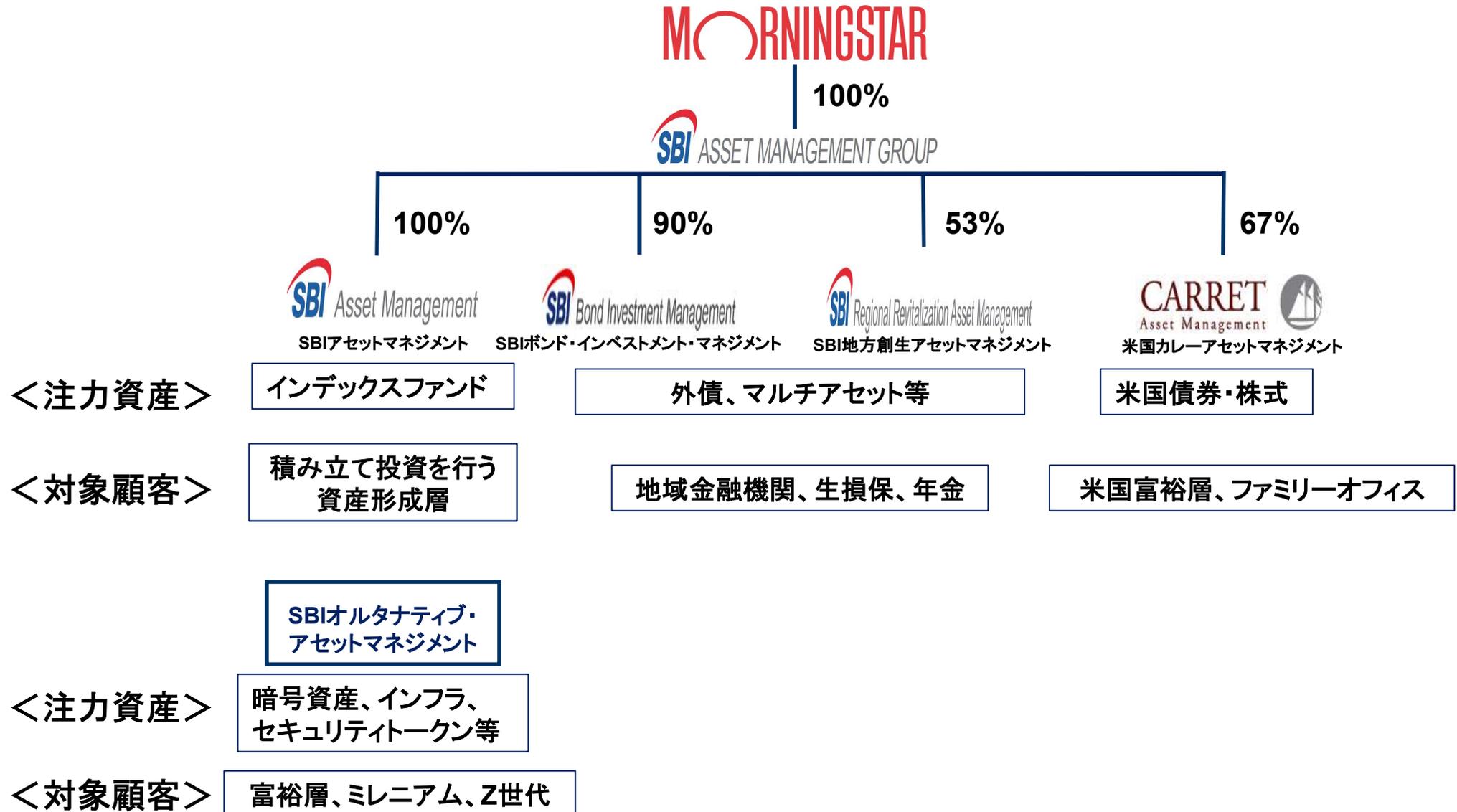
＜2022年3月期第2四半期＞
連結売上高：3,937百万円



大きく伸長するアセットマネジメント事業

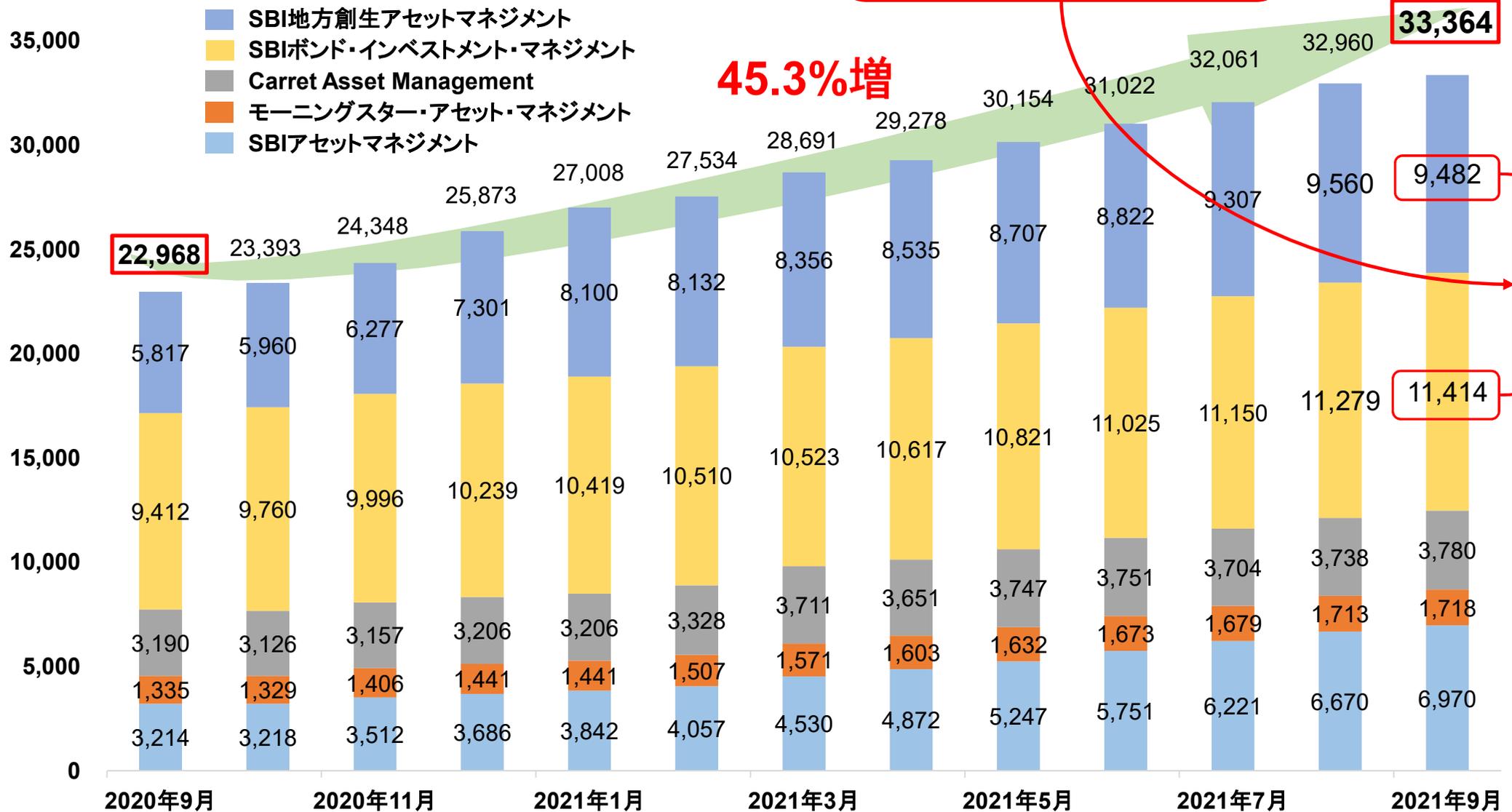
アセットマネジメント事業の今後の注力資産と対象顧客

株式や債券等の伝統的資産に加えて、未公開株式、暗号資産、セキュリティトークン等の次世代資産を組み入れたファンドの組成を検討



拡大を続ける当グループの運用残高

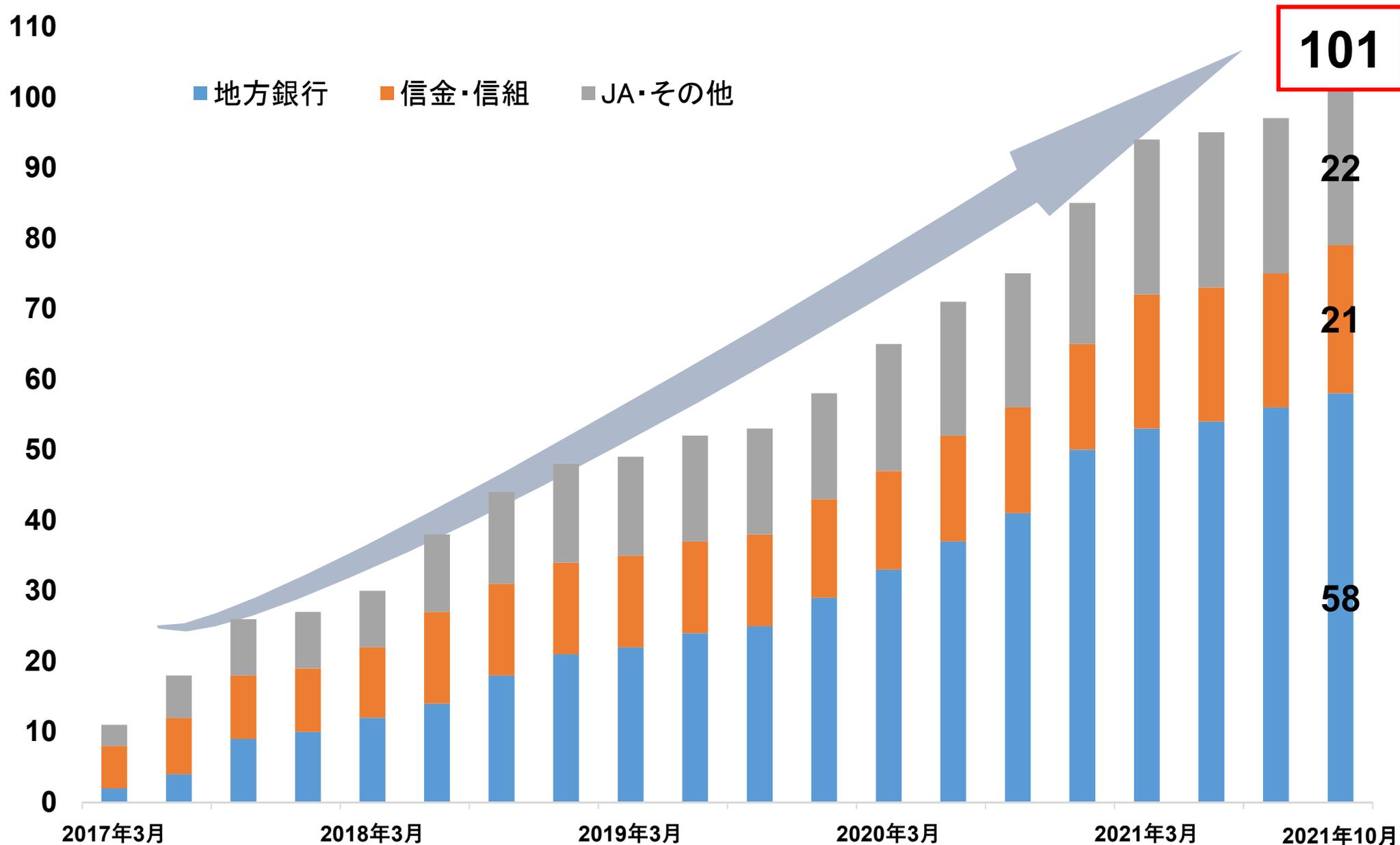
(単位: 億円)



※ Carret Asset Management の運用残高は、2021年9月: 1ドル=111.95円(みずほ銀行公表のTTM)で換算

地方銀行を中心に運用受託社数も拡大

全体で100社突破、地方銀行は全99行中、58行(全体の58.6%)

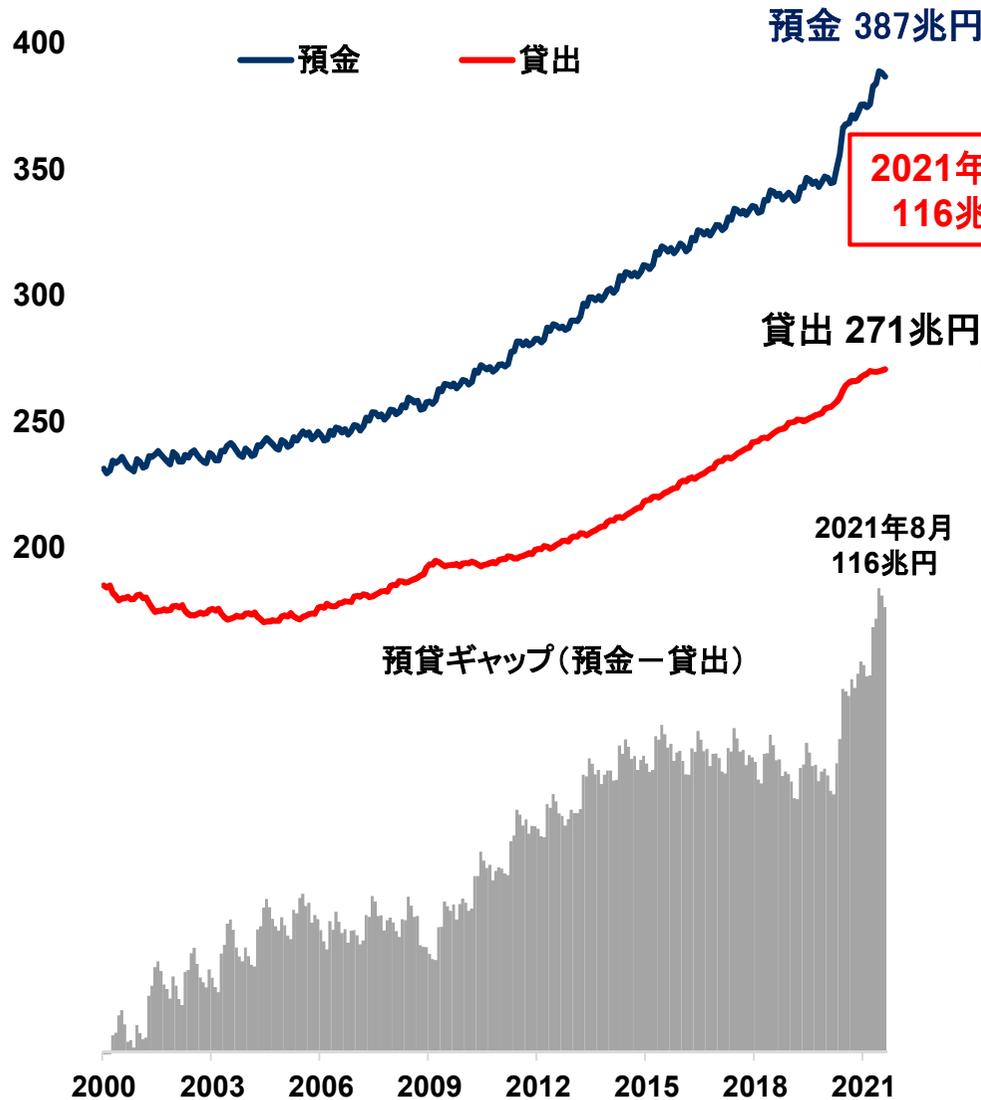


地域金融機関の預貸ギャップは、約200兆円

地域金融機関は預貸ギャップの改善に取り組むことが重要

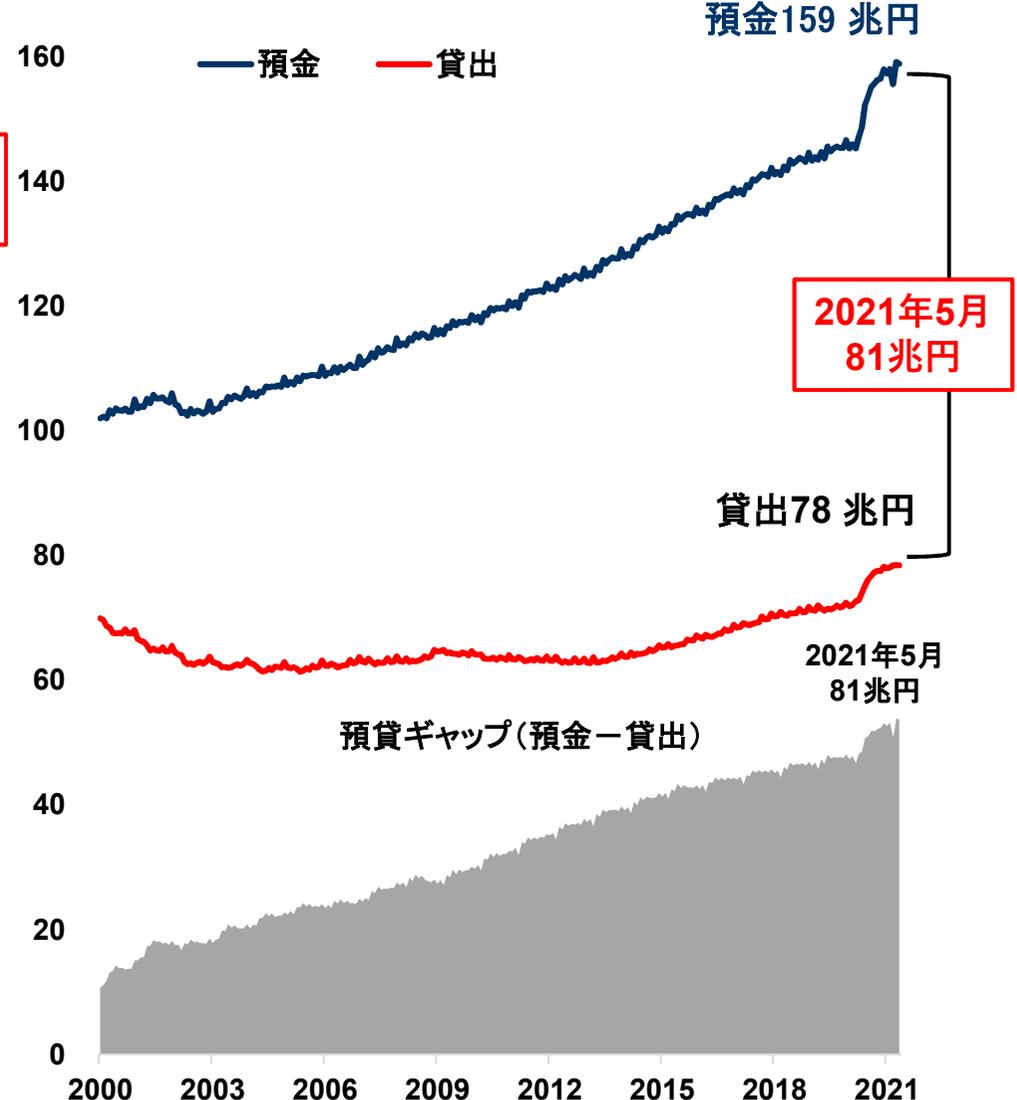
〈地方銀行〉

(単位:兆円)



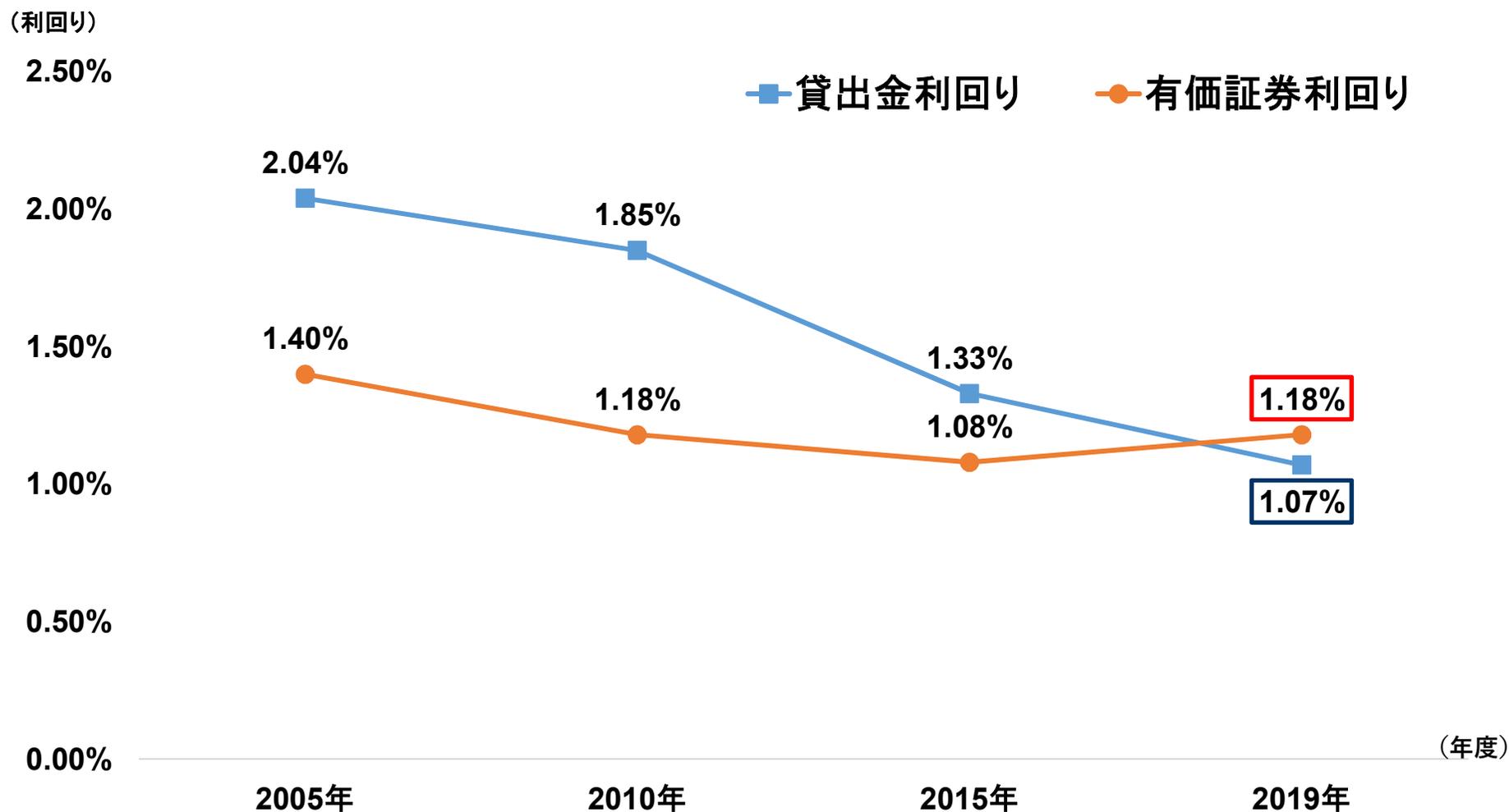
〈信用金庫〉

(単位:兆円)



有価証券運用からの収益依存度が高まる地方銀行

地方銀行の貸出金利回り・有価証券利回りの推移



※ 数値は地域銀行全体の平均利回り

※ 貸出金利回り=貸出金利息÷貸出金平残

※ 有価証券利回り=有価証券利息配当金÷有価証券平残

出所: 全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」

地域金融機関の有価証券運用の高度化が必要な理由

負債勘定が短期の預金の銀行・信金・信組は、
リスクを抑えた運用で安定したリターンを追求せざるをえない

運用主体別の投資対象リスクの比較

リスク項目	地方銀行/信金・信組	銀行/信金・信組 の主な制約	生保	年金
	① 金利リスク		短期 (外債は平均4年)	IRRBB: 金利上昇時の損失額が自己資本の2割以内
② 信用リスク	A格以上	自己資本比率: 格付けに応じた信用リスク量を配分	平均BBB-以上	平均BBB-以上
③ 価格変動リスク	低 (株式は数%以内) 株式のリスクウエイトは 100%→250%へ	VAR: 株式など変動性が高い市場の保有を制限	中 (株式やREIT等を 1~2割保有)	高 (内外株式を 5割程度)
④ 流動性リスク	低 (流動性の高い 債券中心)	負債が預金のため 高い換金性が必要	中 (不動産等の非流動 性資産も含む)	高 (未公開株式、不動産、 ヘッジファンド等も投資)

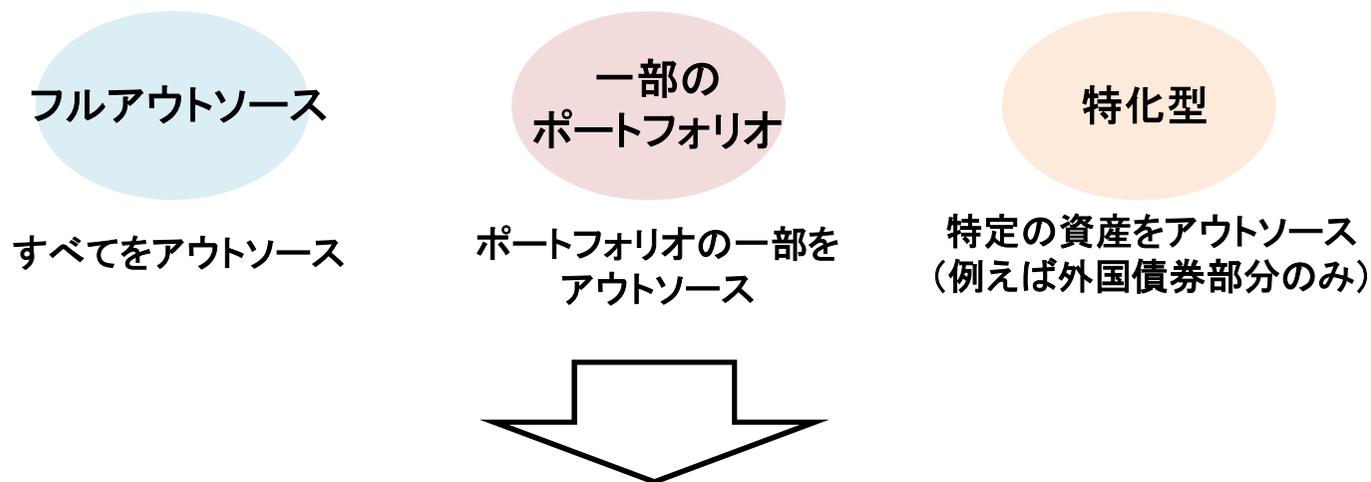
有価証券運用の高度化に向けて外部委託の活用が拡大する

海外では有価証券ポートフォリオの運用について外部専門家に委託するアウトソースド・チーフ・インベストメント・オフィサー(OCIO)の活用が広がっている

<外部運用委託が広がる背景>

- 1) グローバルな分散投資とリスク管理が実現可能
- 2) 外部委託の運用を行いながら、運用専門の人材の教育と育成が可能
- 3) 内部人材のリソースを少なくすることで、有価証券運用利回りの向上が図れる
- 4) 委託者である金融機関は戦略的な中核業務に注力することが出来る

<アウトソースモデル>

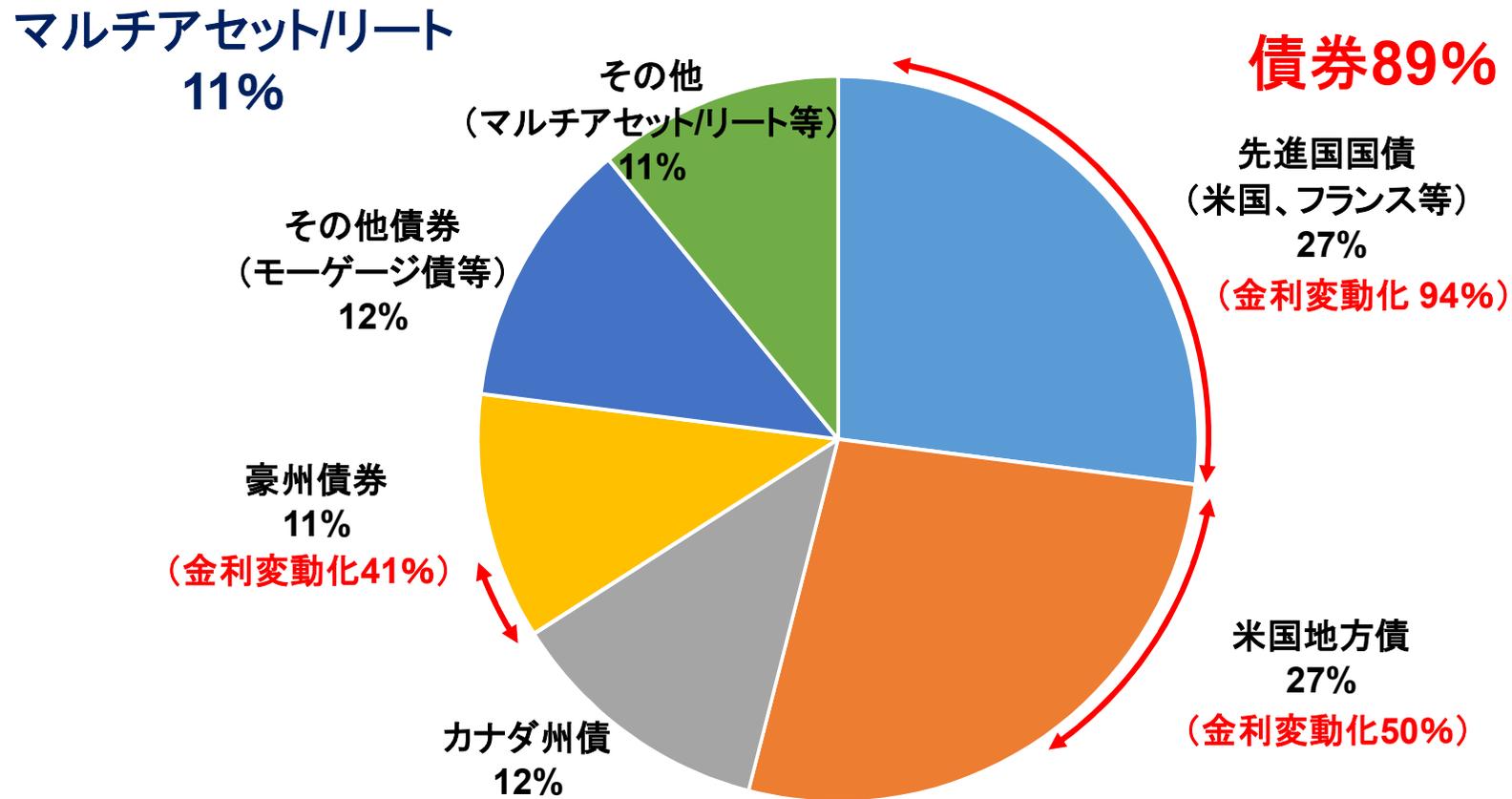


地域金融機関でも、有価証券運用のアウトソースを利用するケースが増えてくる

当グループの地域金融機関からの受託資産別の構成比

- ・全体の約9割が債券型ファンド
- ・債券型ファンドのうち約5割が変動金利型商品

受託資産別の構成比



当グループの直近1年間の私募投信の累計資金流入額は第4位に

＜私募投信の累計資金流入額＞
 (2020年10月～2021年9月)

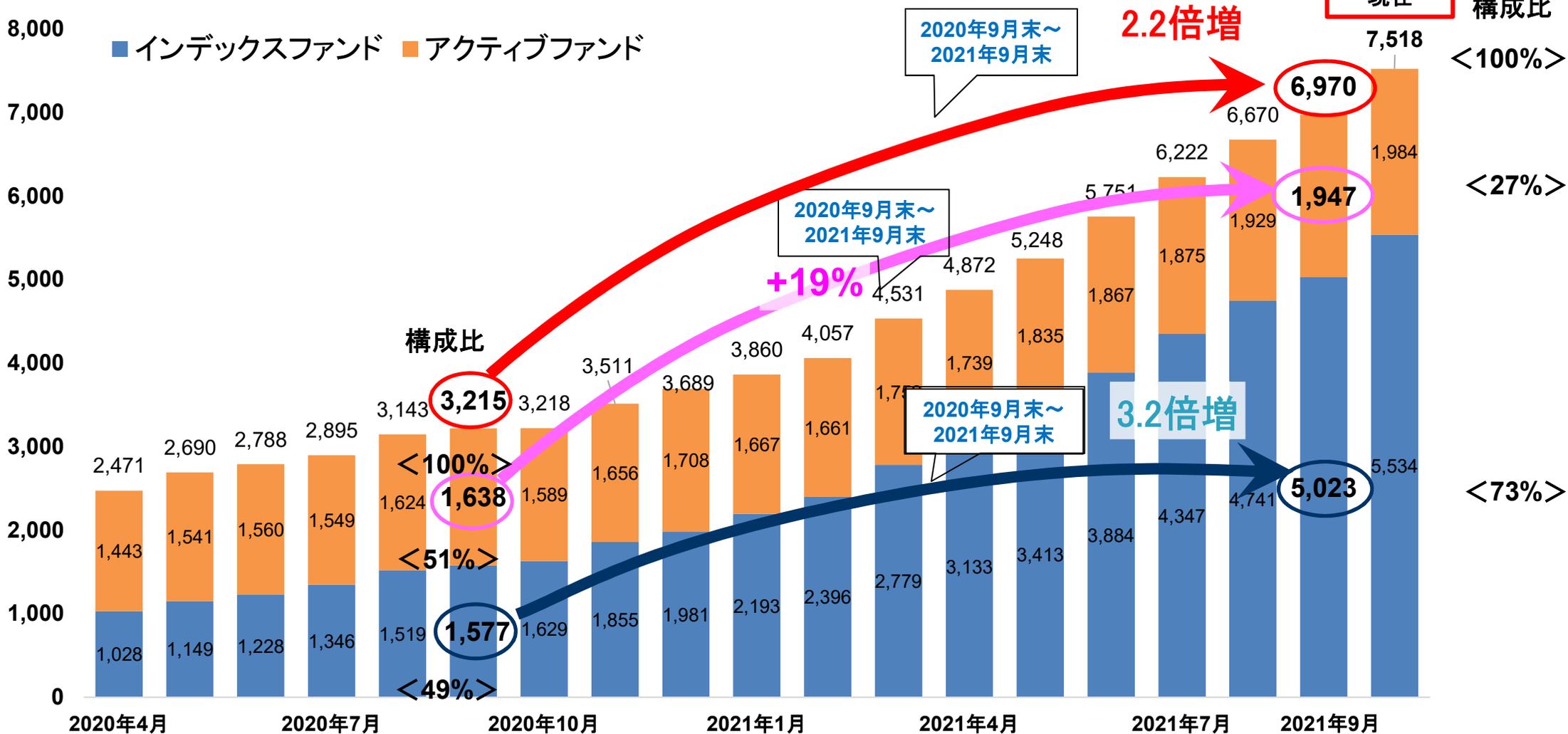
順位	投資信託会社	過去1年累計 資金流入額(億円)
1	インベスコ・アセット・マネジメント	14,350
2	三井住友トラスト・アセットマネジメント	10,853
3	ブラックロック・ジャパン	8,059
4	SBIアセットマネジメントグループ	5,768
5	JPモルガン・アセット・マネジメント	5,628
6	SOMPOアセットマネジメント	3,722
7	ブルーベイ・アセット・マネジメント	3,506
8	アムンディ・ジャパン	2,961
9	大和アセットマネジメント	2,805
10	三菱UFJ国際投信	2,505
11	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ	2,412
12	新生インベストメント・マネジメント	2,403
13	バークレイズ投信投資顧問	1,712
14	アクサ・インベストメント・マネージャーズ	1,658
15	シンプレクス・アセット・マネジメント	1,577
16	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	1,545
17	PGIMジャパン	1,454
18	ピクテ投信投資顧問	1,186
19	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	1,181
20	オールニッポン・アセットマネジメント	1,062

※ 一般社団法人投資信託協会の統計データ 私募投資信託の運用会社資産増減状況より作成

SBIアセットマネジメントの 公募インデックスファンドの運用残高は大幅に拡大

SBIアセットマネジメントのアクティブファンドとインデックスファンドの運用残高の推移

(単位: 億円)

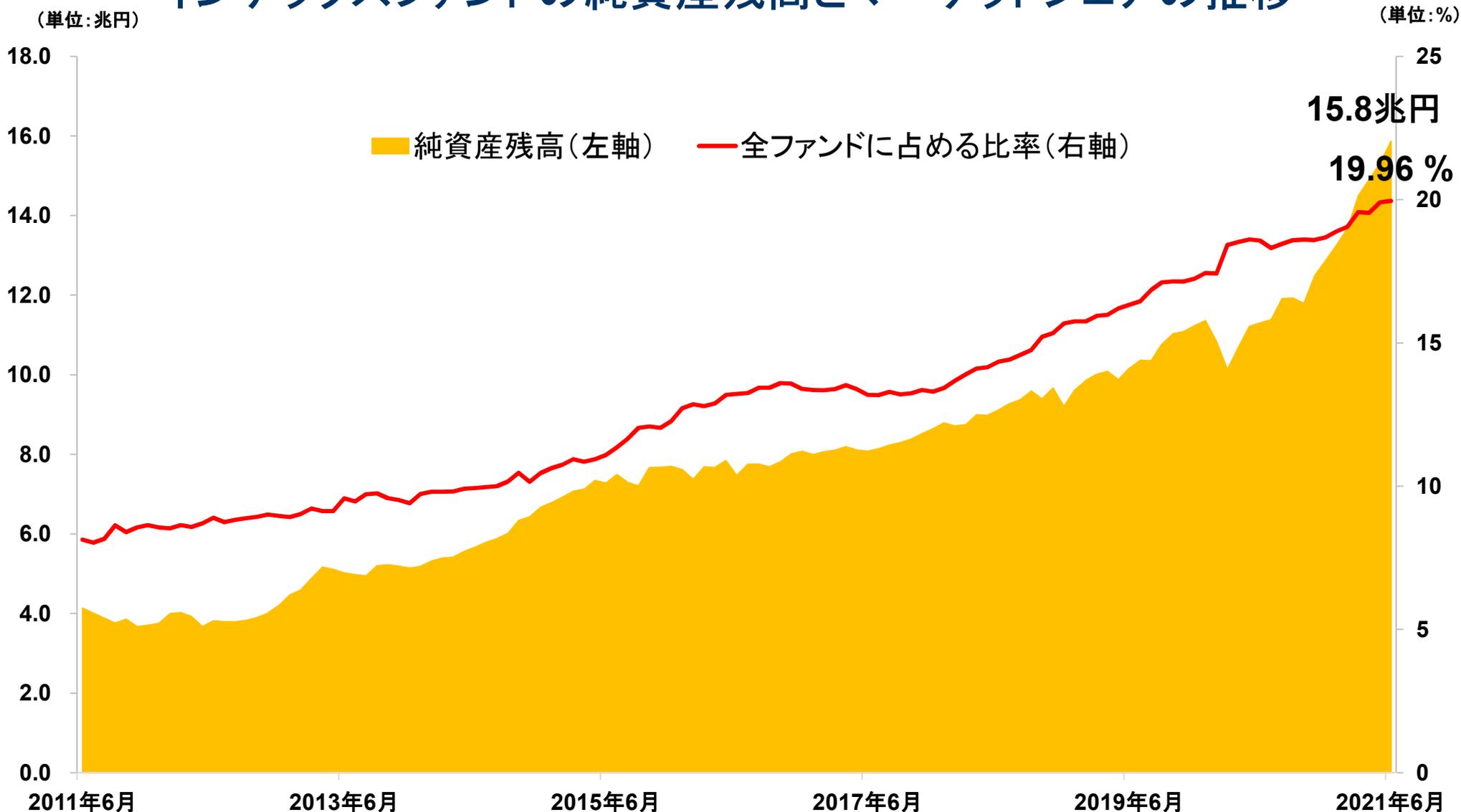


※ 私募投信、年金等を含む

(年/月)

急速に拡大するインデックスファンド

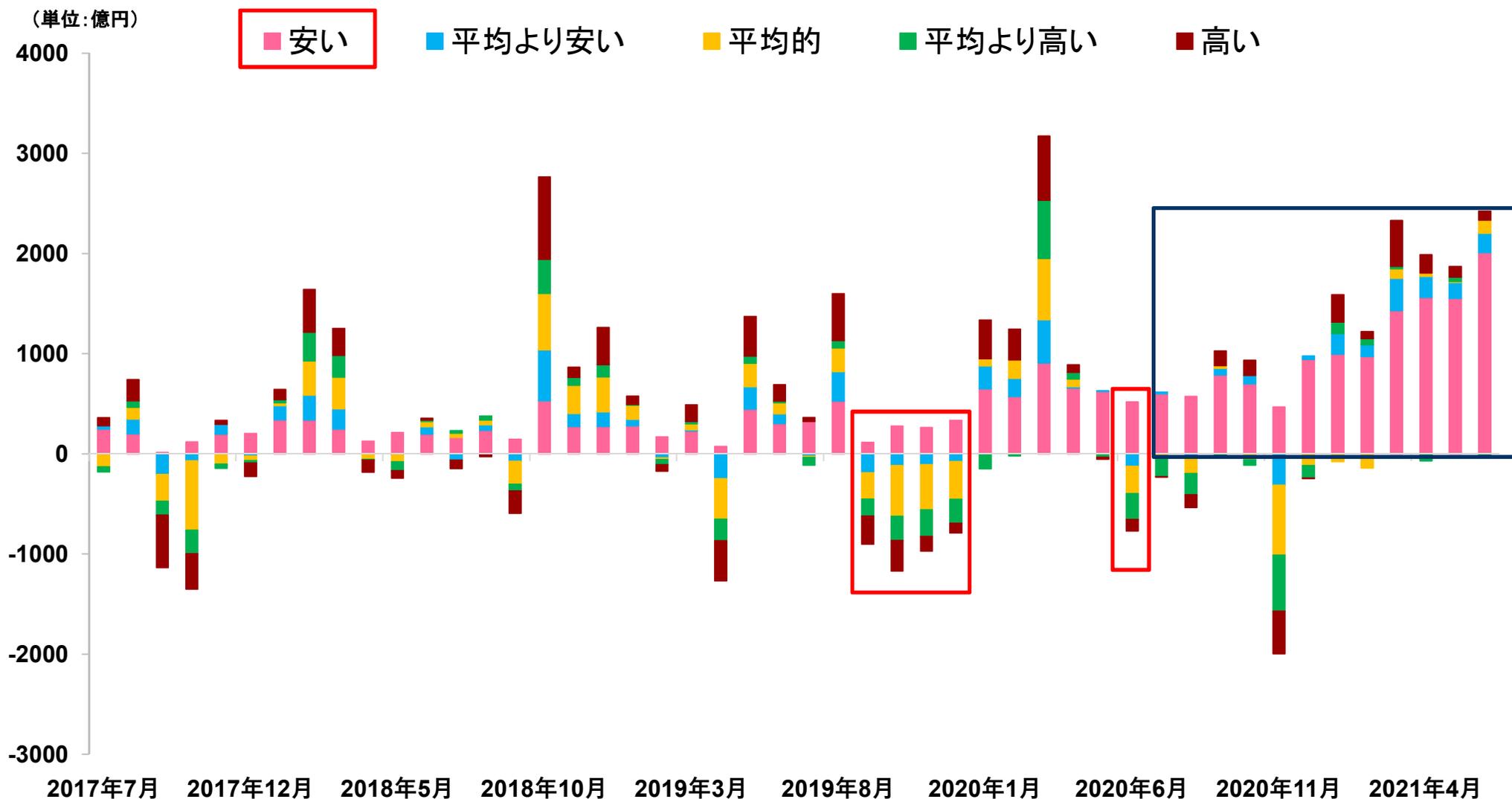
インデックスファンドの純資産残高とマーケットシェアの推移



※期間: 2011年6月~2021年6月(各月末時点)
出所: モーニングスター作成

低コストのインデックスファンドに資金が集まる

インデックスファンドのフィー(コスト)レベル別純資金流出入額



期間: 2017年7月~2021年6月 (2021年6月はモーニングスター推計値)
 出所: モーニングスター作成

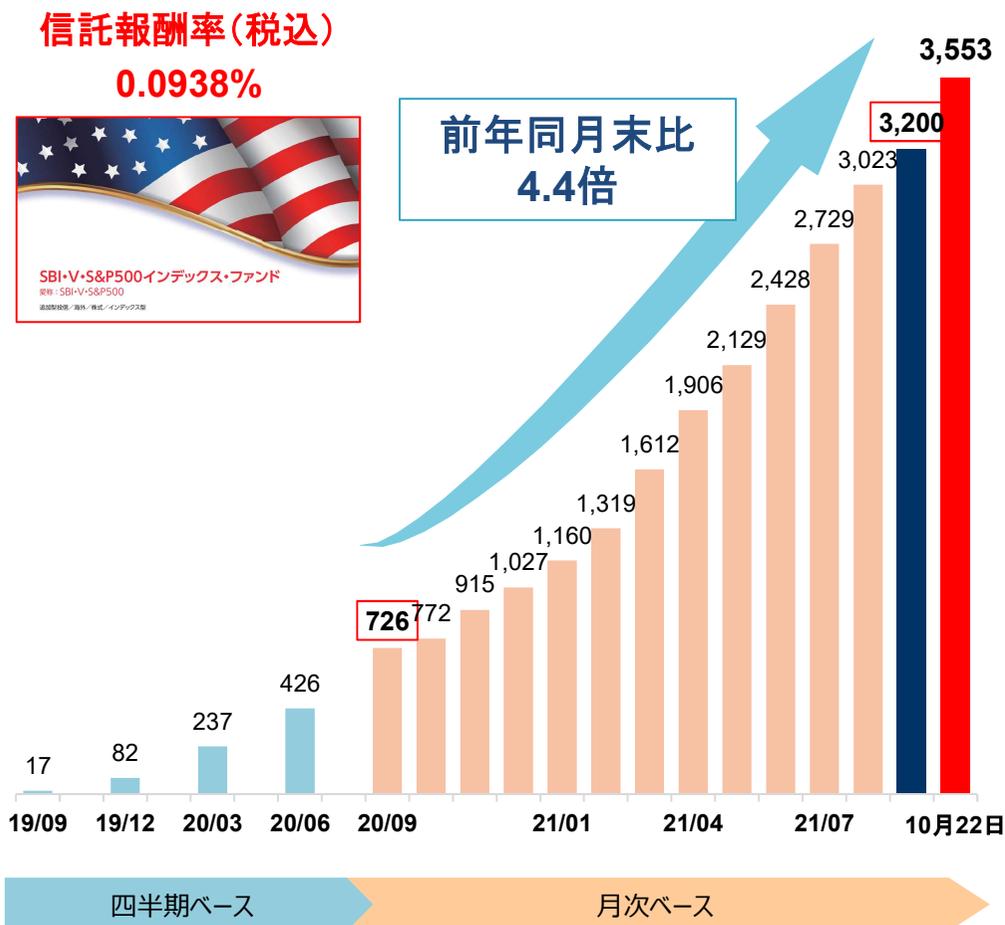
「SBI・V・S&P500インデックス・ファンド」は、3,500億円を突破

< SBI・V・S&P500インデックスファンド >

【純資産残高推移】

2021年10月22日現在の残高: **3,553**億円

(単位: 億円)



< SBI・インデックス・ファンド・シリーズ『愛称:雪だるま』 >

【シリーズ全体の純資産残高推移】

2021年10月22日現在の残高: **596**億円

(単位: 億円)



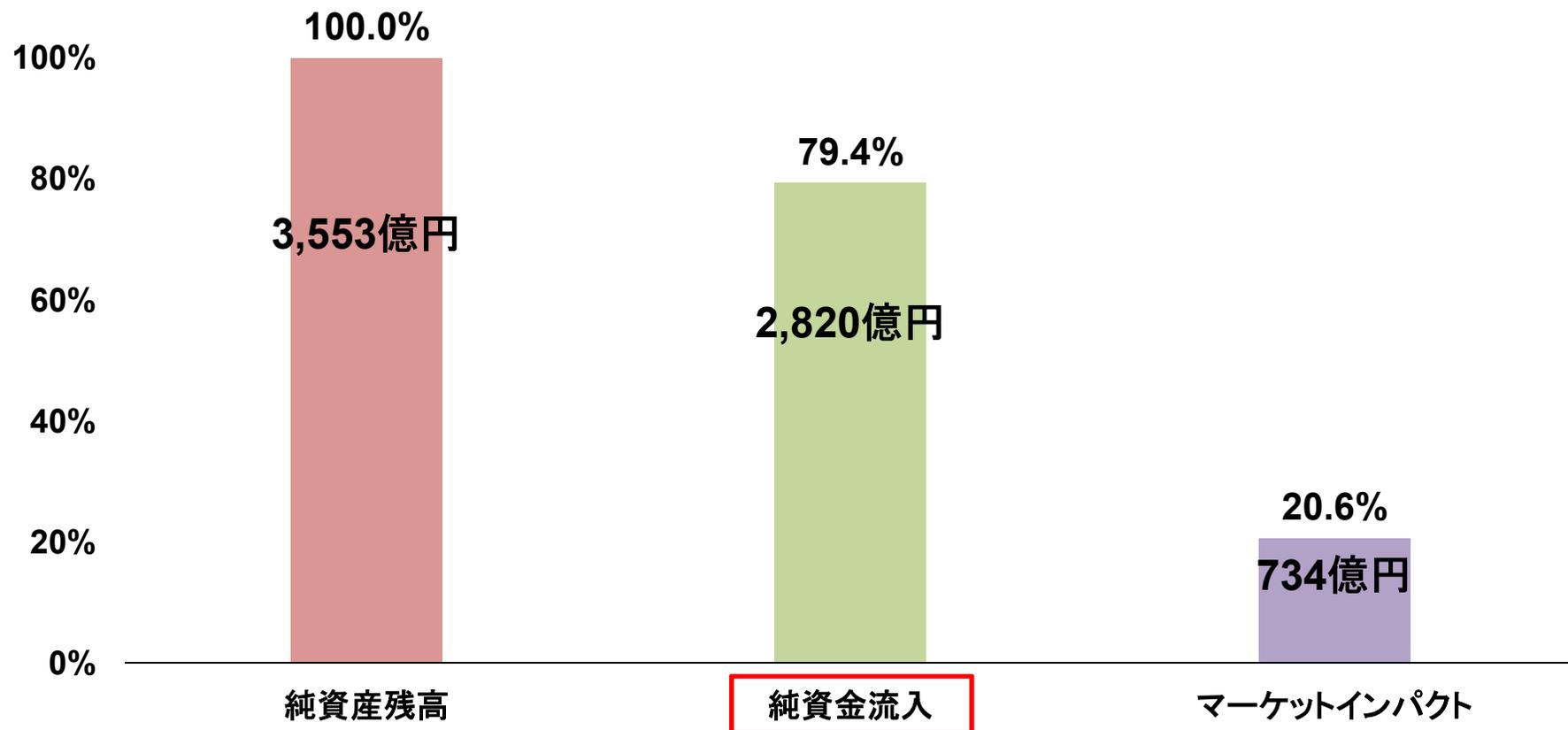
「SBI・V・S&P500・インデックス・ファンド」の残高拡大の要因

全体の約8割が投資家からの資金流入

純資産増減額の内訳

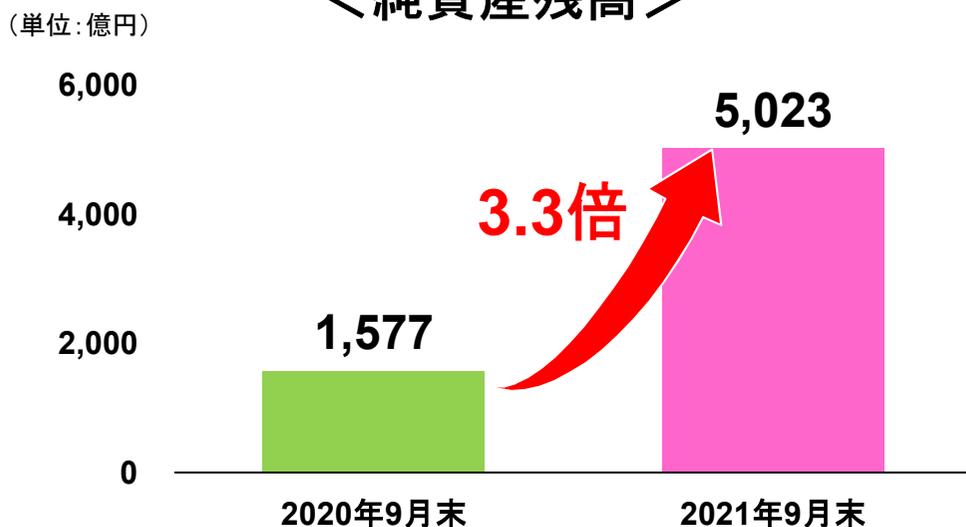
(2019/9/26 設定日~2021/10/22)

<SBI・V・S&P500 インデックス ファンド>

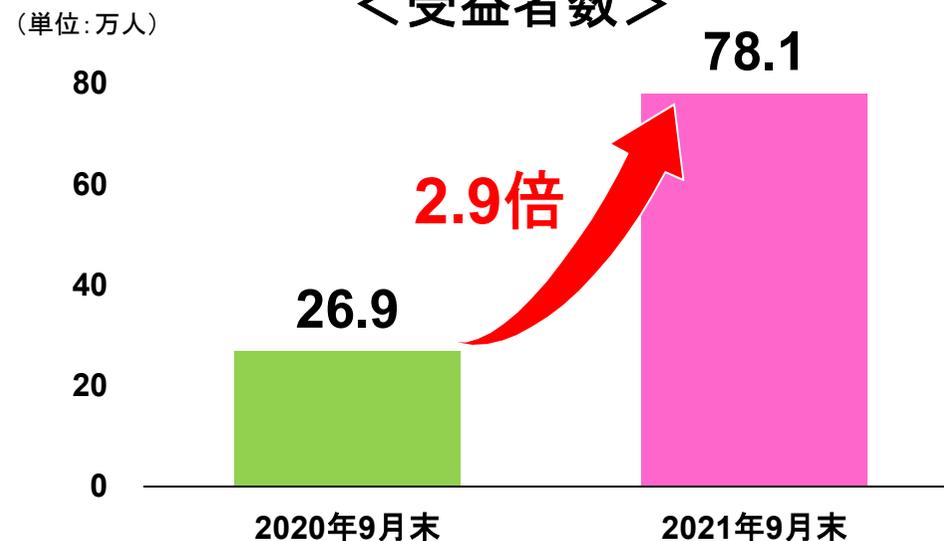


SBIアセットマネジメントのインデックスファンドの 純資産残高、受益者数、積立口座数は 全て前年同期末比約3倍の伸び

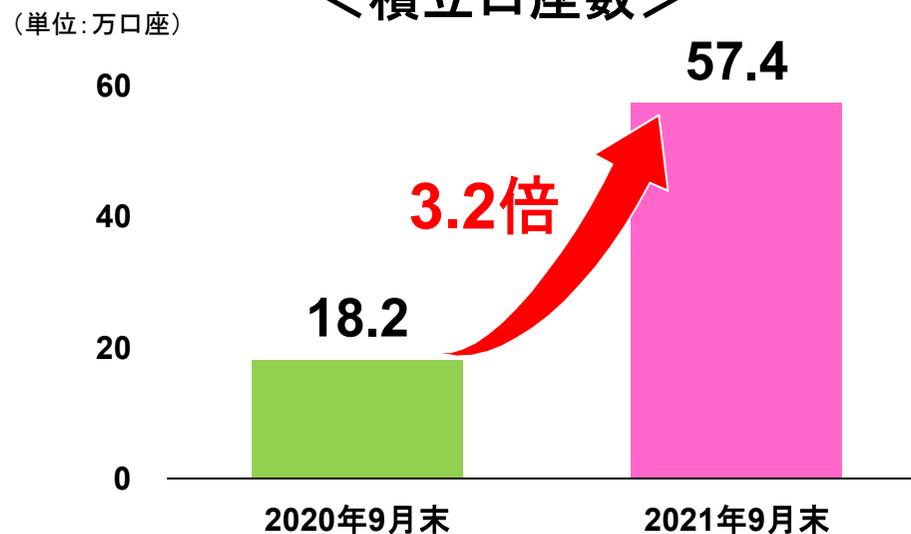
＜純資産残高＞



＜受益者数＞

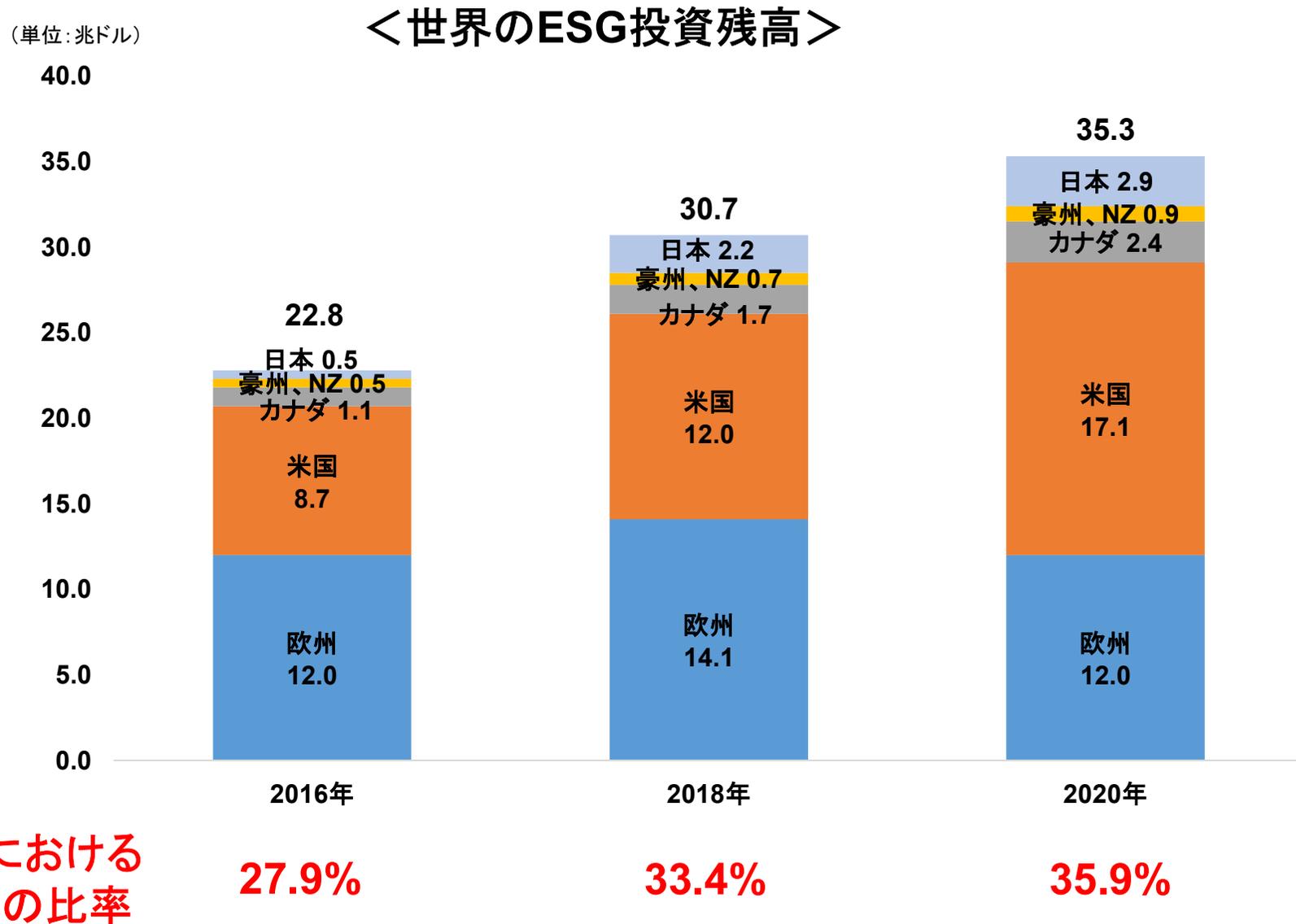


＜積立口座数＞

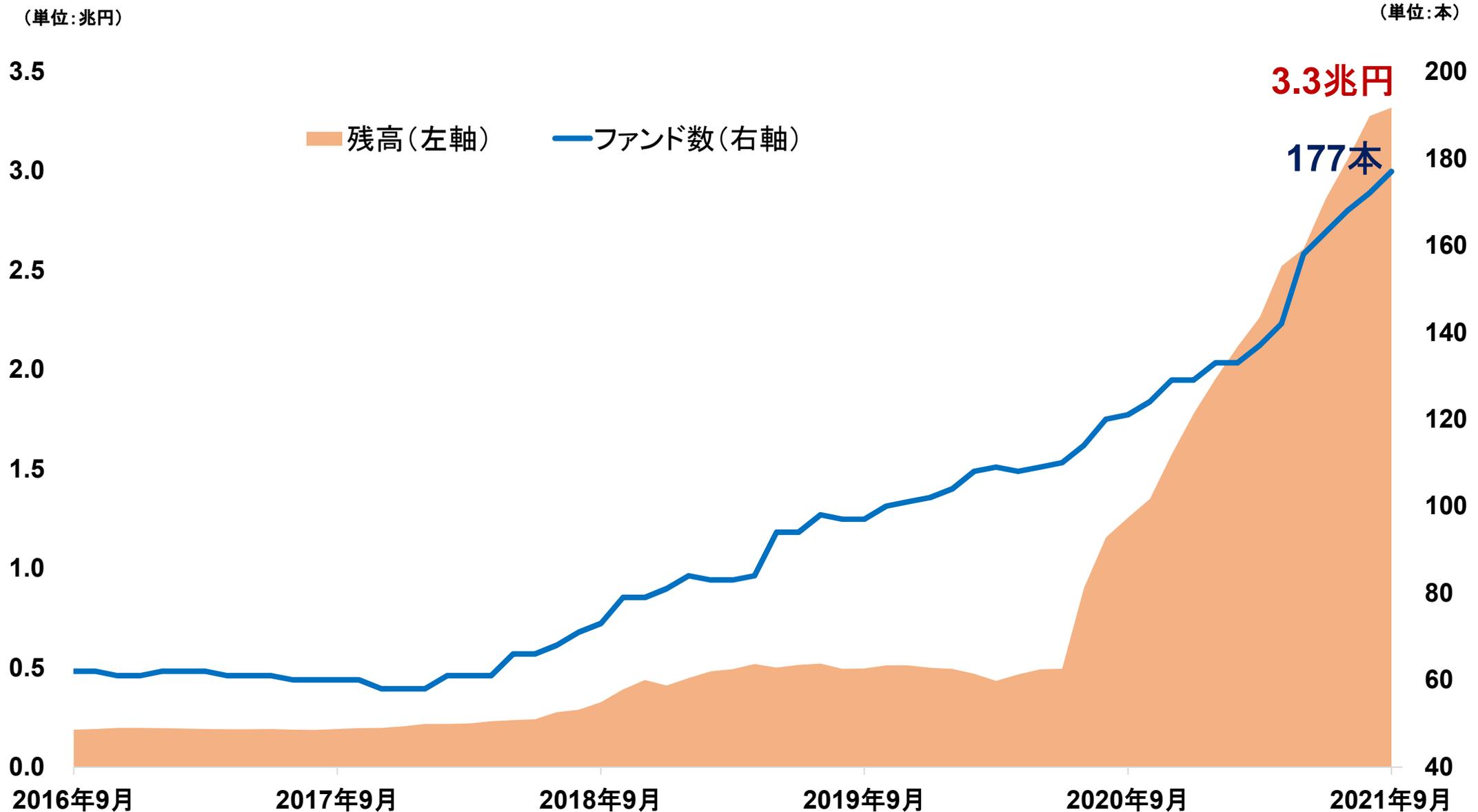


※ 受益者数と積立口座登録者数はSBI証券1社のみの数字

世界のESG投資残高は4,000兆円(35兆ドル)を超える



国内公募投信におけるESGファンドの残高と本数の推移



※ 日本のESGファンド＝国内公募追加型株式投信(ETF除く)のうち、米国モーニングスターの基準で「Sustainable Investment」、「Employs Exclusions」のいずれかに属するファンド
 ※ 期間:2016年9月~2021年9月(月次)

低コストのESGインデックスファンド 2本の設定

募集期間 : 2021年10月25日～11月9日
 ファンド設定 : 2021年11月10日

1. SBI パリ協定ネット・ゼロ インデックス・ファンド

- パリ協定温室効果ガス削減に関連する指数に連動するファンド
- 信託報酬: 0.13%程度(税込)



2. SBI ジェンダー・フリー インデックス・ファンド

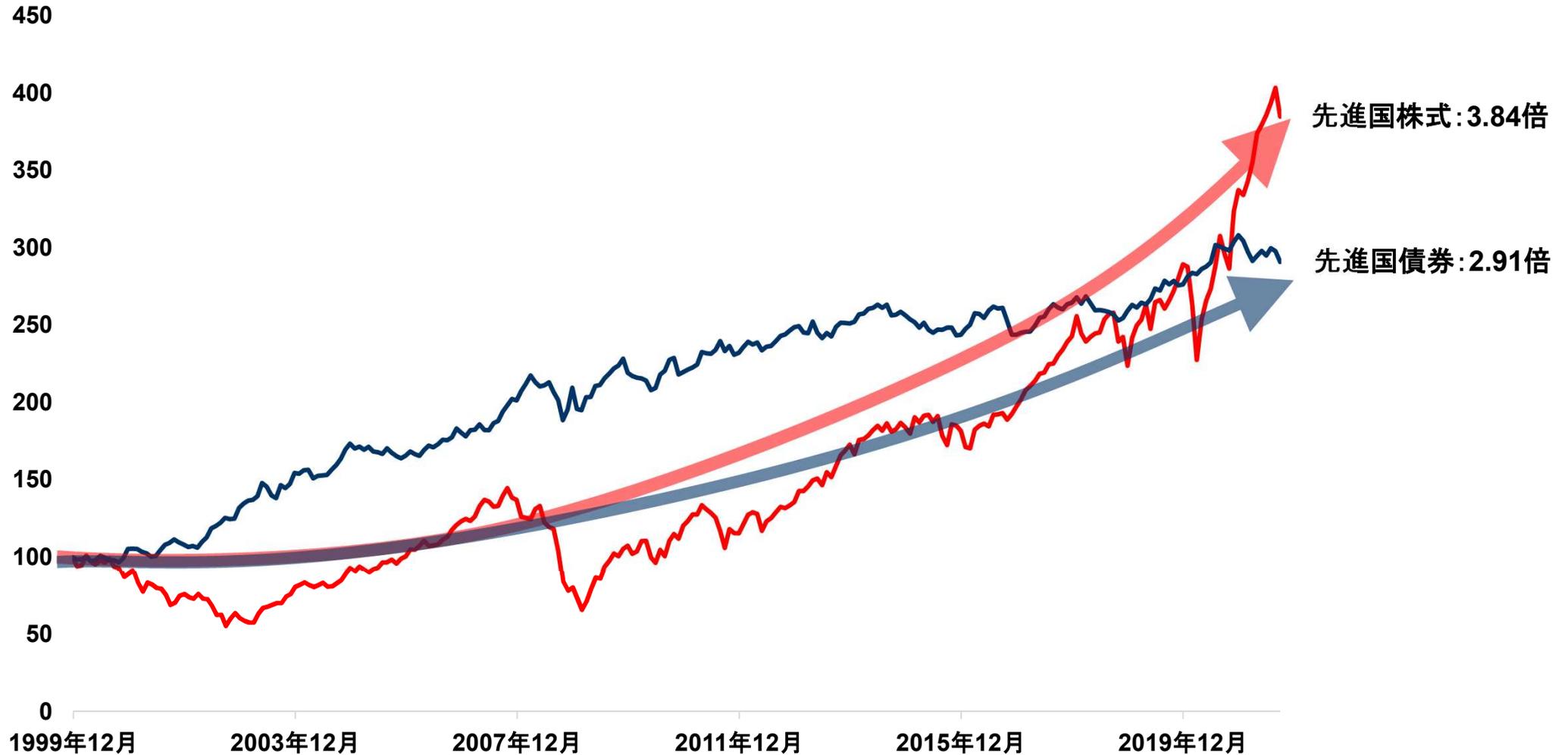
- ジェンダー・フリーに関連する指数に連動するファンド
- 信託報酬: 0.26%程度(税込)



ESGファンドの平均信託報酬: 1.53%(税込)

上昇を続けてきた株式と債券の 今後の期待利回りは以前より厳しくなる

(1999年12月末=100)



※ 先進国株式=MSCIコクサイ(配当込み、米ドルベース)
※ 先進国債券=FTSE世界国債インデックス(除く日本、米ドルベース)
出所: 期間: 1999年12月~2021年9月(月次)

伝統的資産クラスに対して暗号資産の相関は低い

各資産クラスの相関係数

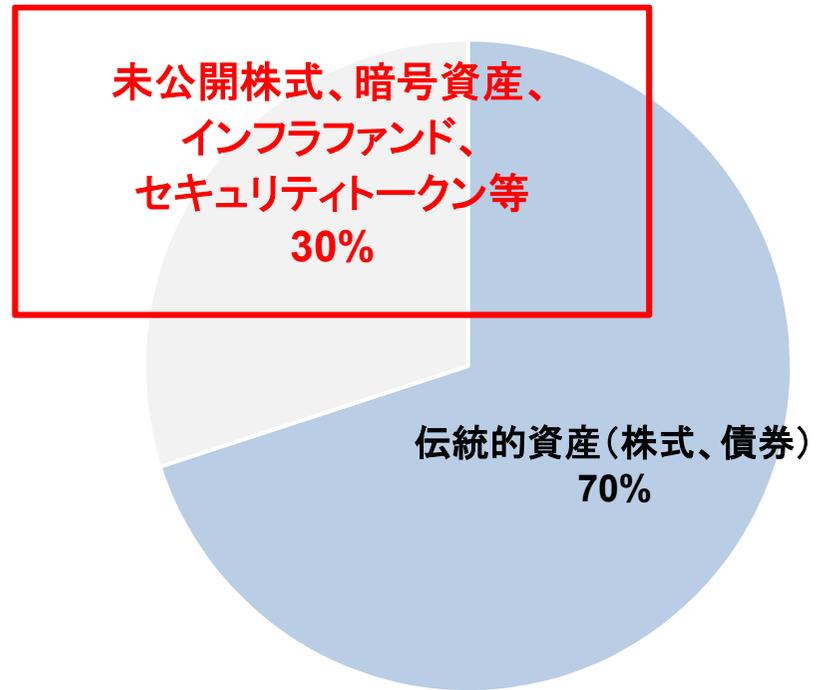
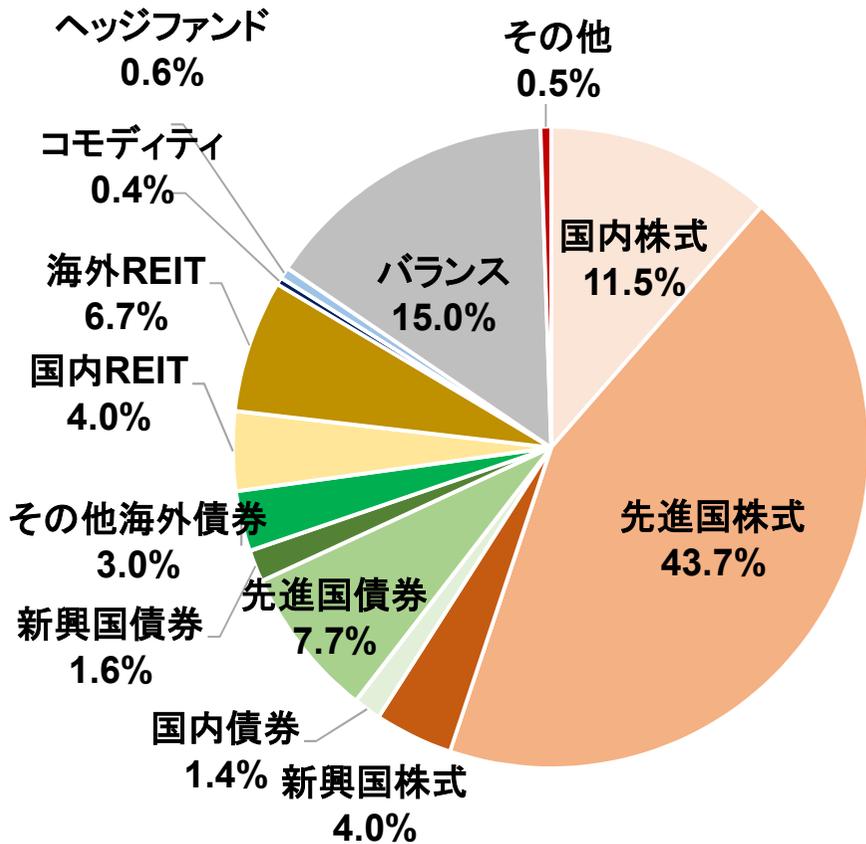
	世界株式	世界債券	ビットコイン	XRP
世界株式	-	-0.52	0.75	0.70
世界債券	-0.52	-	-0.60	-0.55
ビットコイン	0.75	-0.60	-	0.66
XRP	0.70	-0.55	0.66	-

※ 世界株式: FTSE ALL World Index、世界債券: WGBI。ドル建て
 ※ 期間: 2020年9月14日～2021年9月14日
 出所: モーニングスター作成

期待利回りの低下に備えて、新たな資産クラスを提供する

＜国内投信の資産クラス別構成比＞
2021年8月

「ニューノーマル」時代に向けて、投資家はポートフォリオに新しい資産クラスの組入れを検討すべき。



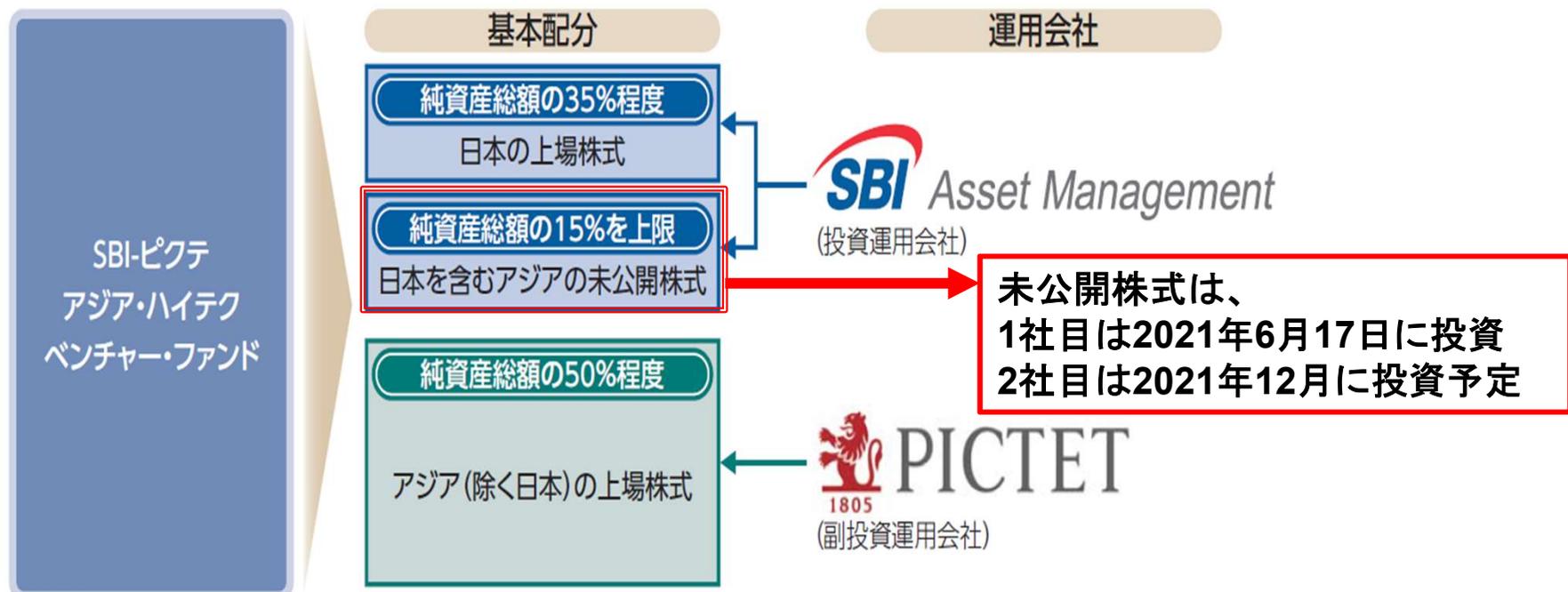
※ 国内公募追加型株式投信(確定拠出年金及びファンドラップ専用、ETF等除く)
 ※ 2021年8月末時点
 出所: モーニングスター作成

欧州最大級運用会社ピクテとの共同での 未公開株式組み入れファンドは本格的に未公開株式への投資を開始

優良な未公開企業の発掘および投資はSBIグループとの連携で可能となる

「SBI-ピクテ アジア・ハイテクベンチャー・ファンド」

設定日 : 2020年7月29日
純資産残高 : 52億6,481万円 (2021年10月22日時点)
トータルリターン : 設定来 17.47% (2021年9月末時点)



伝統的資産の期待利回り低下を補う、次世代資産の大きな可能性 ⑤

SBIグループのリソースを結集した 「暗号資産ファンド」(匿名組合)の設定へ



SBIオルタナティブ・アセットマネジメント

設定・運用



「SBI暗号資産ファンド」
(匿名組合)

投資
・
保管

SBI VC Trade
(暗号資産取引所)

SBI証券 SBIマネープラザ

(対面・オンライン)

販売



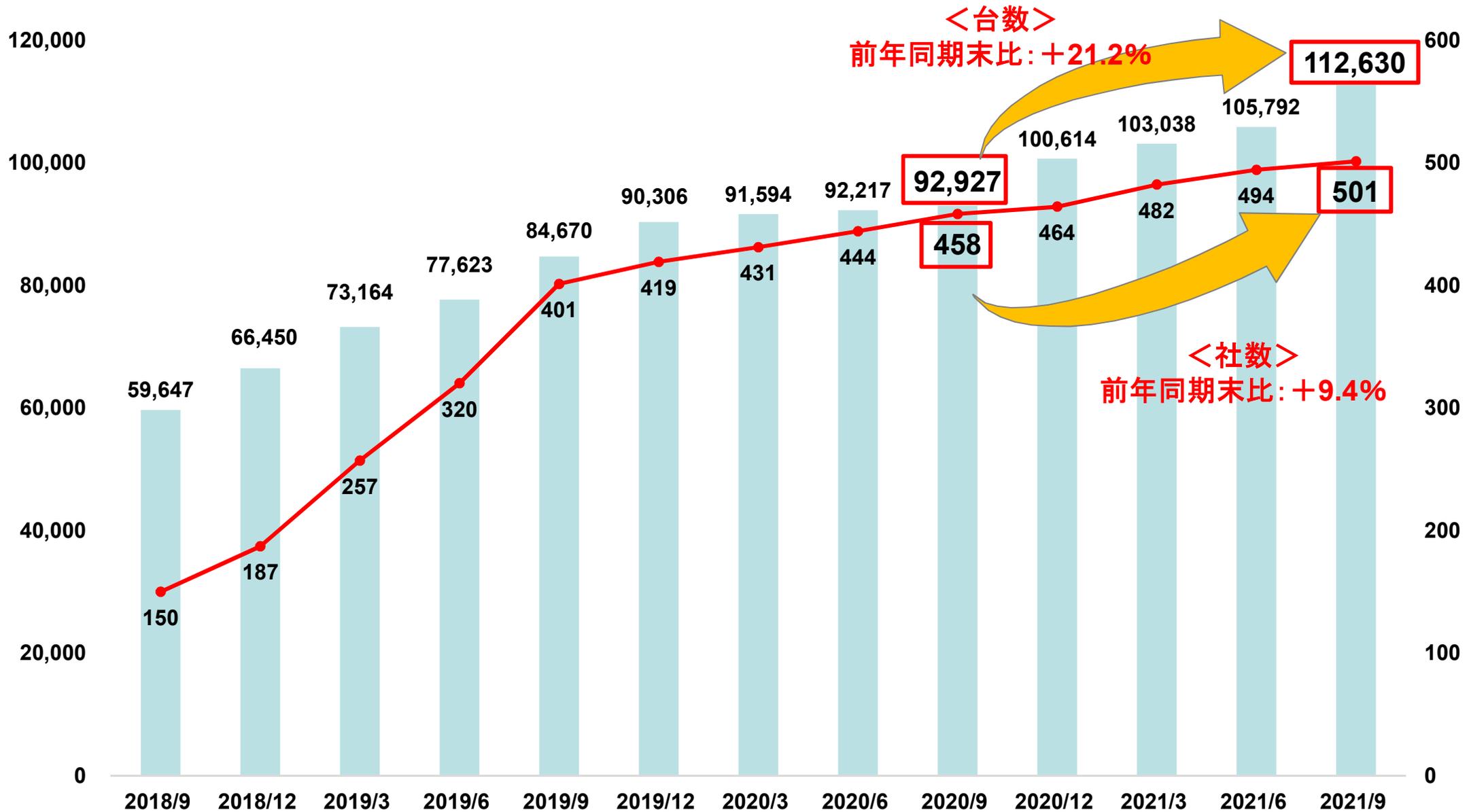
個人投資家

引き続きSaaS事業が牽引する ファイナンシャル・サービス事業

「Wealth Advisors」の利用社数は500社を突破し、 利用台数は前年同期末比2割以上の増加

(単位: 提供台数)

(単位: 提供社数)



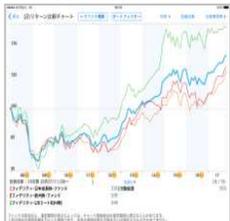
「Wealth Advisors」の顧客情報との連携は 「顧客本位の業務運営」の進展により導入検討先が増加

Phase1

顧客へのアドバイス機能

提案

- 比較・合成チャート
- ポートフォリオ分析
- リスク・リターン分析



Phase2

顧客情報との連携 (CRM連携)

■提供中 : 3社

メガ銀行 : 1社
信託銀行 : 1社
地方銀行 : 1社

■導入検討 : 12社

地方銀行 : 9社
証券会社 : 2社
その他 : 1社

顧客情報との連携

Phase3

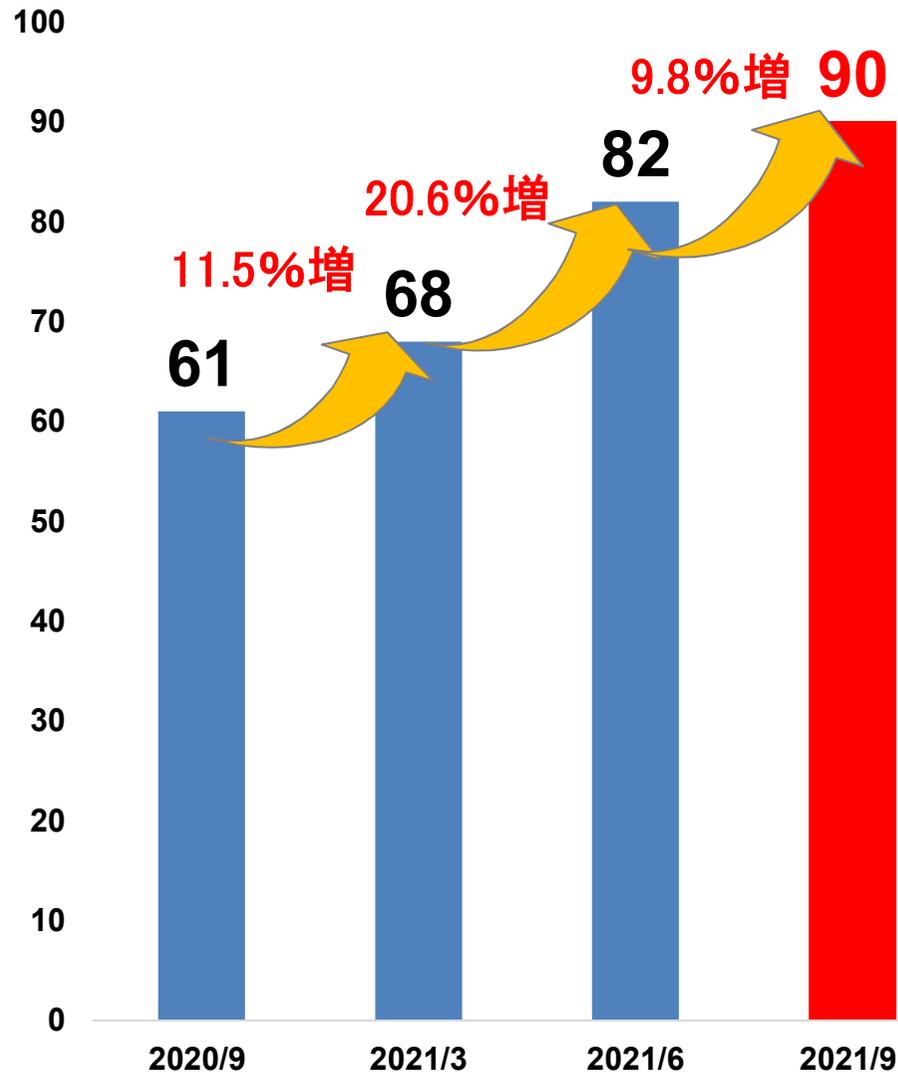
売買システムとの連携

約定



当社の提供する運用シミュレーションツールの利用金融機関が拡大

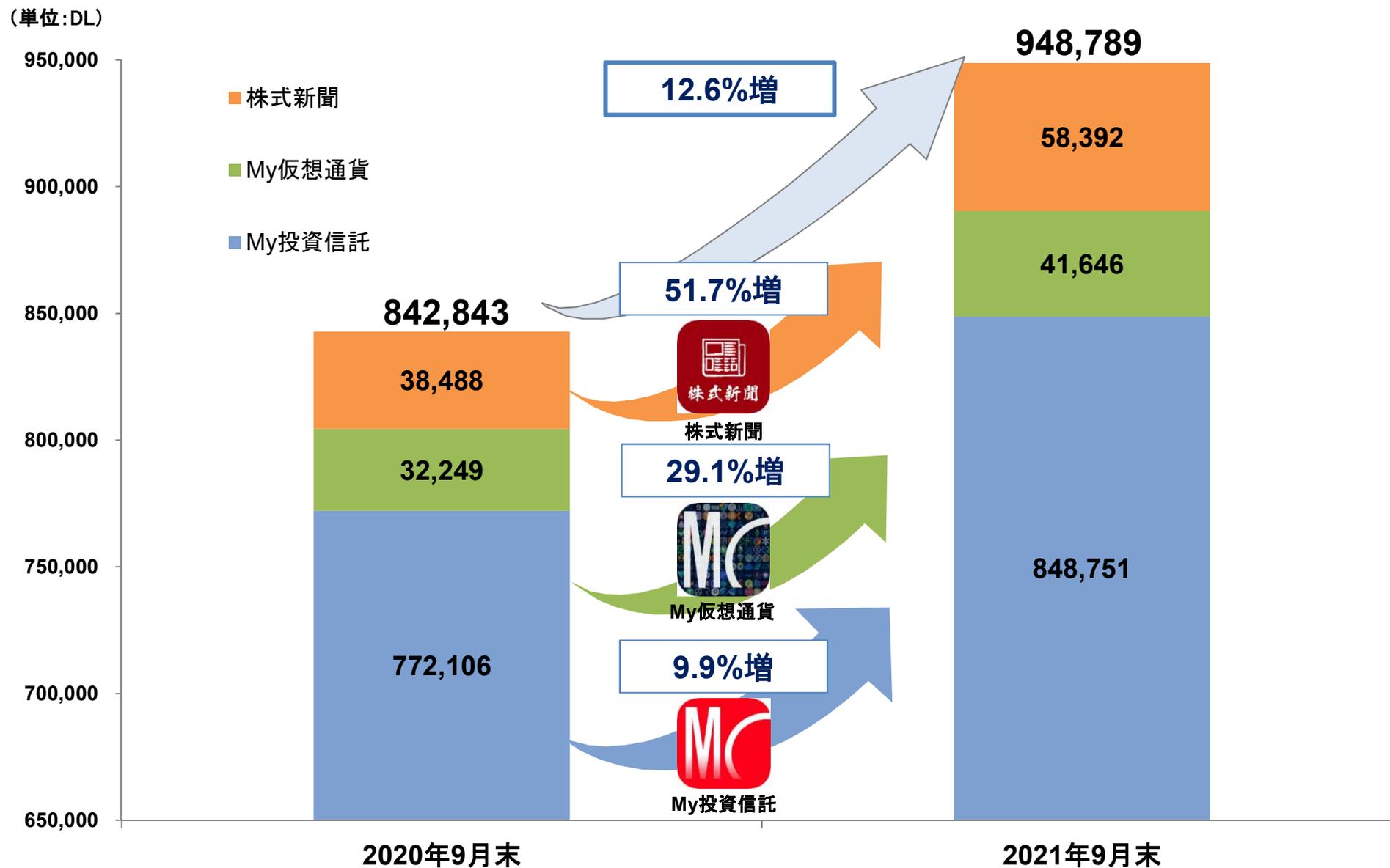
＜スマートフォン・PC向けの
データ・ツール利用金融機関社数＞
(単位:社)



＜当社開発のデータ・運用シミュレーションツール＞

- 詳細なファンドデータ
- ライフプランシミュレーション
- 相続シミュレーション
- ロボ・アドバイザー
- お金の色分け診断
- 積立シミュレーション
- つみたてNISA節税シミュレーション
- iDeCo節税シミュレーション
- 金融電卓

対前年同期比で二桁増加を続ける スマートフォンアプリのダウンロード数



「対面 & オンライン」のハイブリット型セミナーの 参加者数は大幅に増加

＜2021年1月16日(土)開催＞
モーニングスターカンファレンス2021(新春)

協賛数:7社



・全体参加者数 : 1,349名

オンライン視聴者数 : 1,277名
来場者数 : 72名

・アンケート回答数 : 218名

オンライン視聴者数 : 165名
来場者数 : 53名

4.1倍増



7.1倍増



＜2021年9月18日(土)開催＞
投信EXPO2021

協賛数:21社



・全体参加者数 : 5,572名

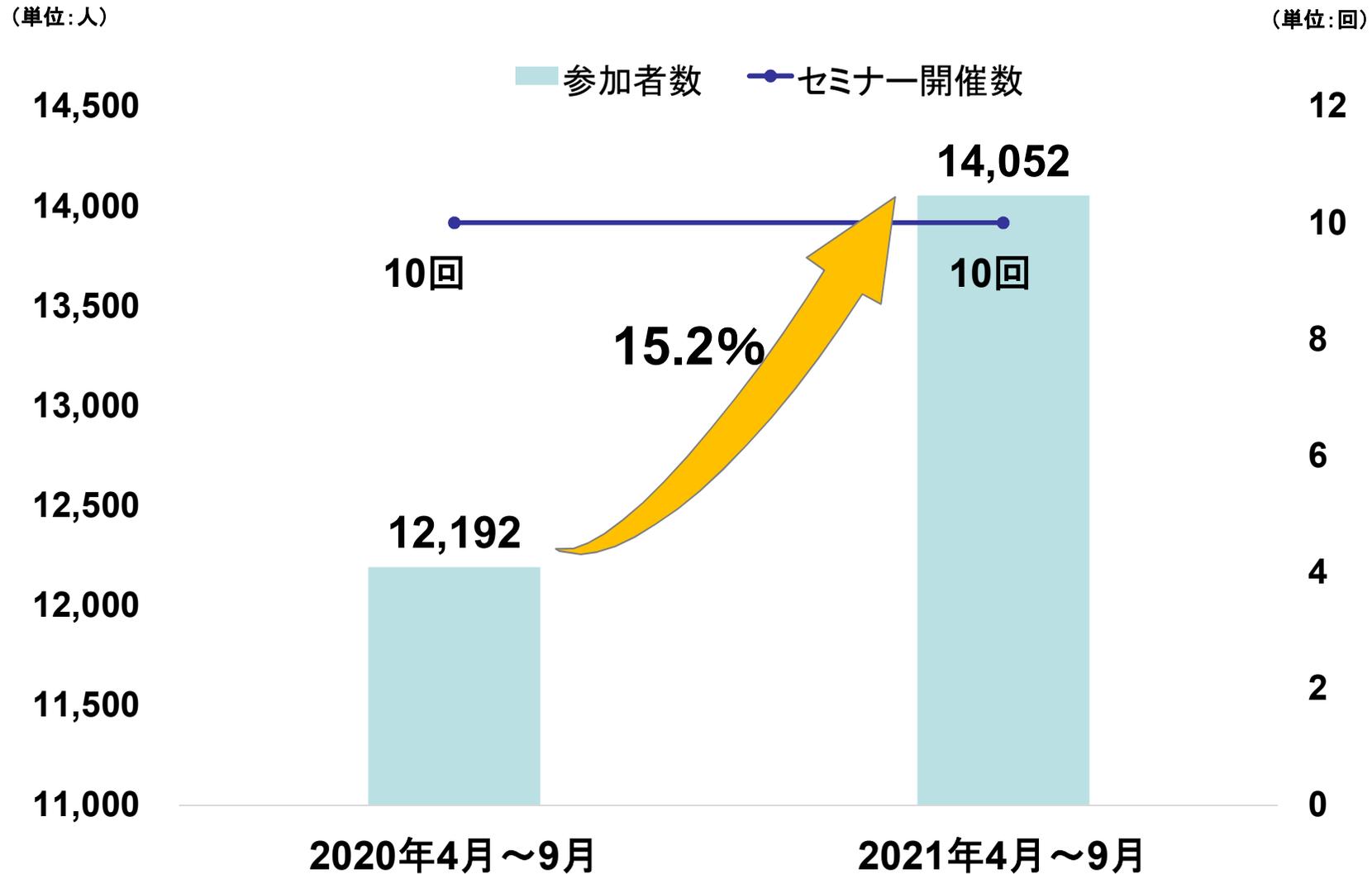
オンライン視聴者数 : 5,416名
来場者数 : 156名

・アンケート回答数 : 1,556名

オンライン視聴者数 : 1,438名
来場者数 : 118名

セミナーの開催回数は前年同期と同数だが、参加者数は増加

＜セミナー開催数と参加者数の推移＞



確定拠出年金加入者向けの投資助言アプリ 『らくらく資産づくり』は2021年10月から本格的に提供開始

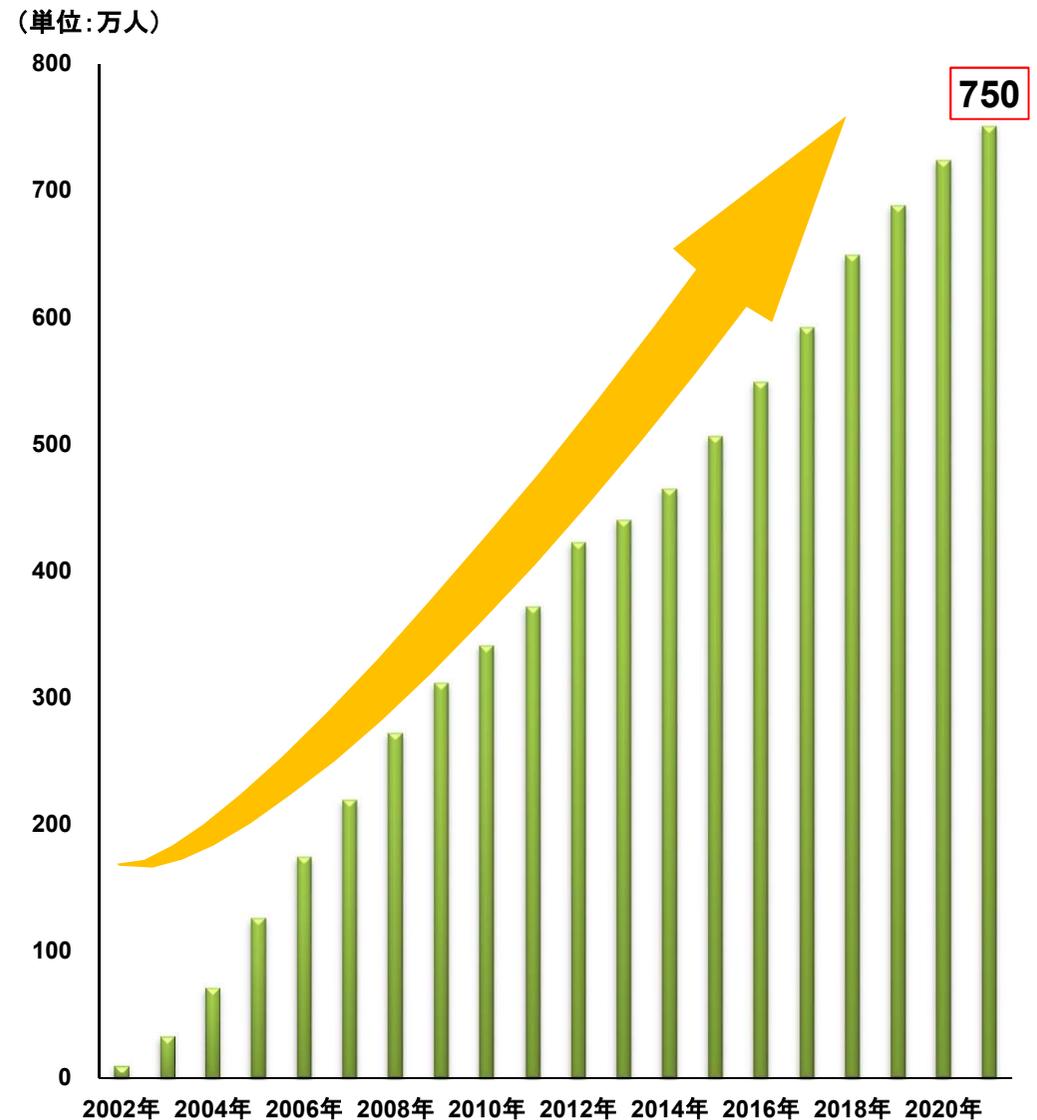
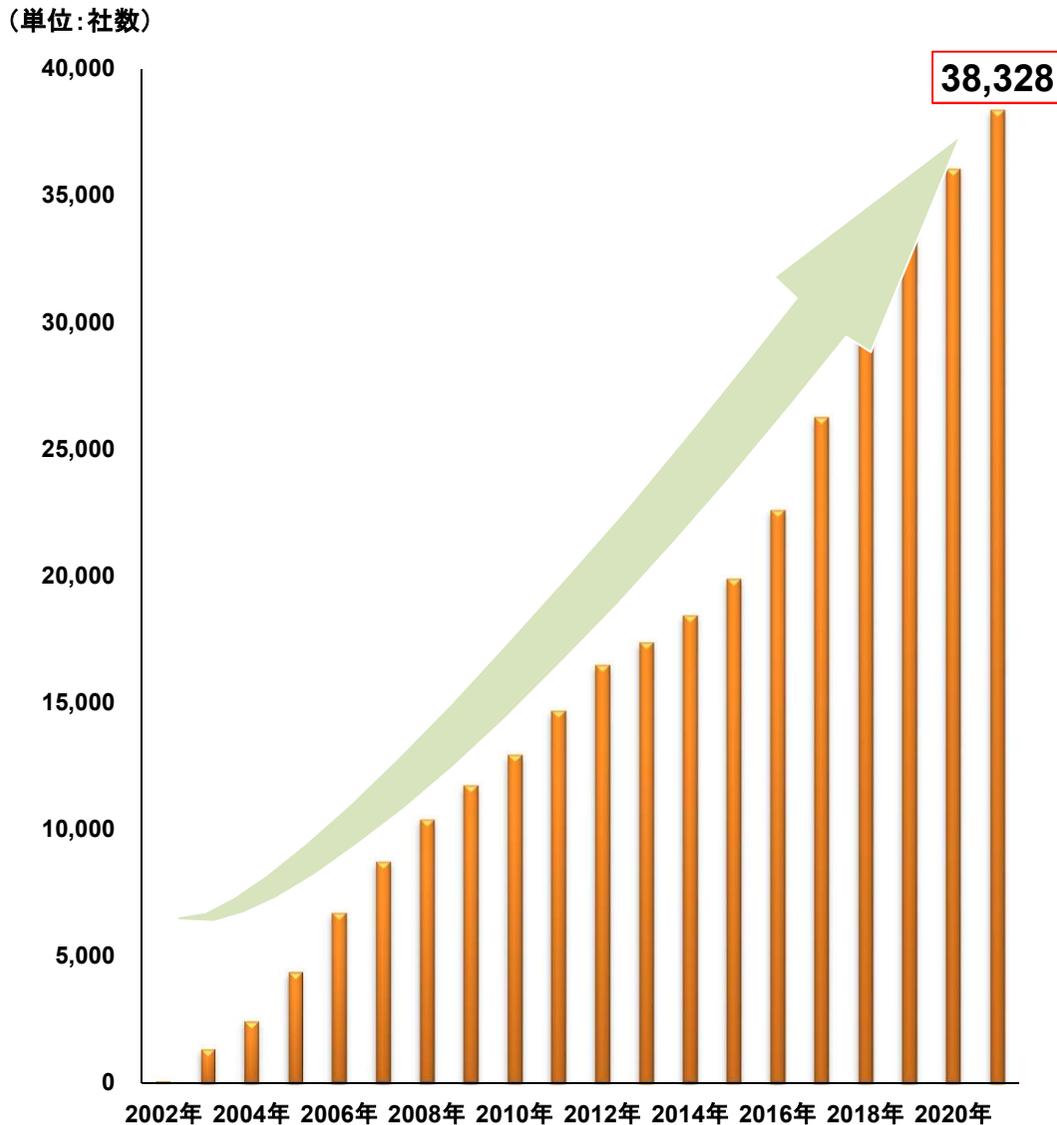
1年で10万人、3年で30万人の利用ユーザー数を目指す



企業型確定拠出年金採用の事業所数と加入者数は大幅に拡大

＜企業型確定拠出年金の事業所数＞

＜企業型確定拠出年金の加入者数＞



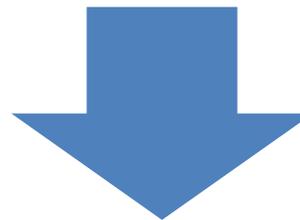
※ 企業型確定拠出年金の事業所数は 各年3月末時点(出所:厚生労働省)
 企業型確定拠出年金の加入者数は 各年3月末時点、2021年3月末(速報値)(出所:運営管理機関連絡協議会)

東京証券取引所の「プライム市場」申請に向けた 株式の立会外分売を実施

「プライム市場」の上場基準を満たしていない「流通株式比率」について、
2021年11月9日に株式の立会外分売を実施することにより、上場基準に適合する見込み

(流通株式の状況)

	2021年9月30日	△不足
流通株式比率	34.88%	△0.12%
流通株式数	31,276,830	△108,930



(立会外分売の内容)

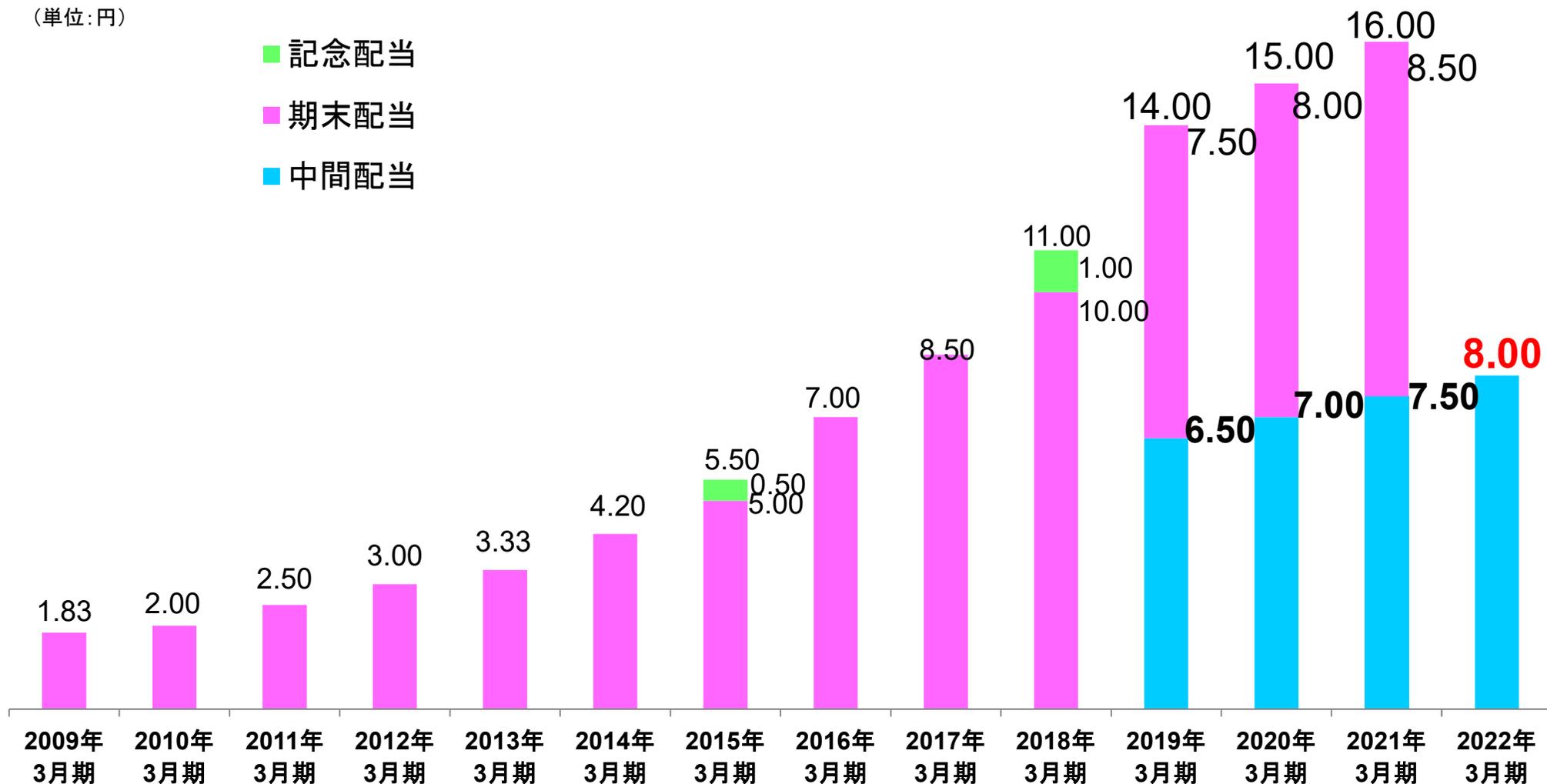
- 1 実施日：2021年11月9日
- 2 分売予定株式数：350,000株（発行済株式89,673,600株の0.39%）

	分売前		分売		→	分売後	
	株数	比率	株数	比率		株数	比率
流通株式	31,276,830	34.88%	350,000	0.39%		31,626,830	35.27%

2022年3月期中間配当は50銭増配の8円00銭を実施

通期の株主への配当は12期連続で増配を継続中

(単位:円)

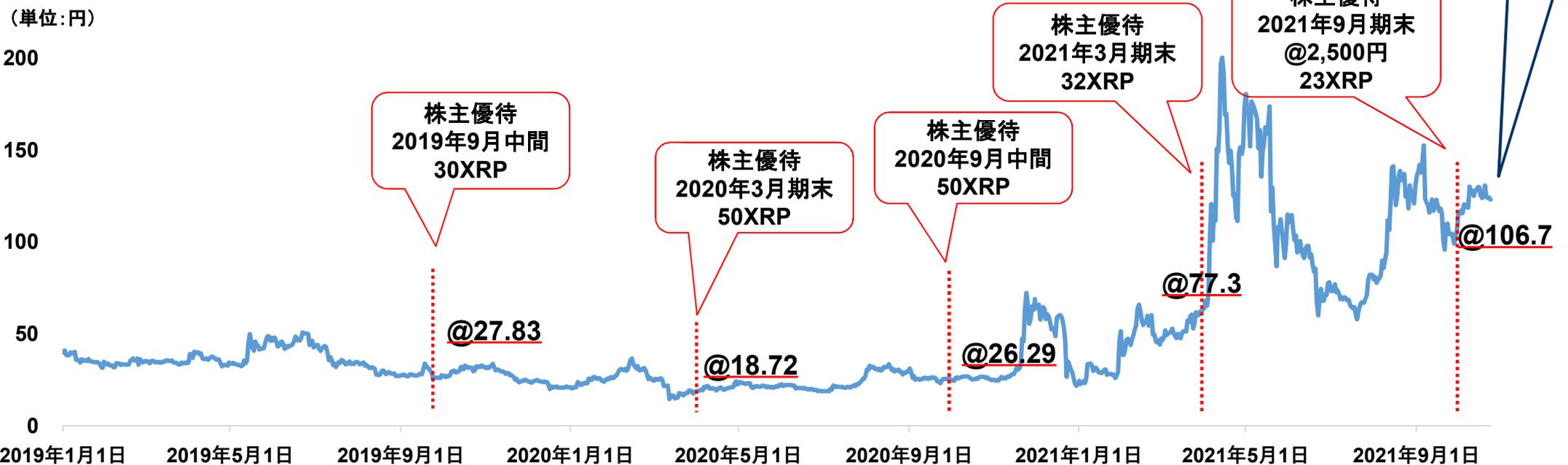


(注) 2013年7月1日付で株式1株につき300株の株式分割を行っております。2013年3月期以前は株式分割後の株式数で計算しております。
 2015年3月期の記念配当は、上場15周年記念配当であります。
 2018年3月期の記念配当は、設立20周年記念配当であります。

中間株主優待 2,500円相当の「暗号資産(仮想通貨)XRP」を贈呈

	当中間株主優待 2021年9月30日基準
XRP	2,500円相当の XRPを贈呈 (23 XRP) 2021年9月30日 17:00 の価格(1XRP=106.7 円)で決定
申込期間	2021年12月1日から2022年4月30日まで

暗号資産(仮想通貨)XRPの推移

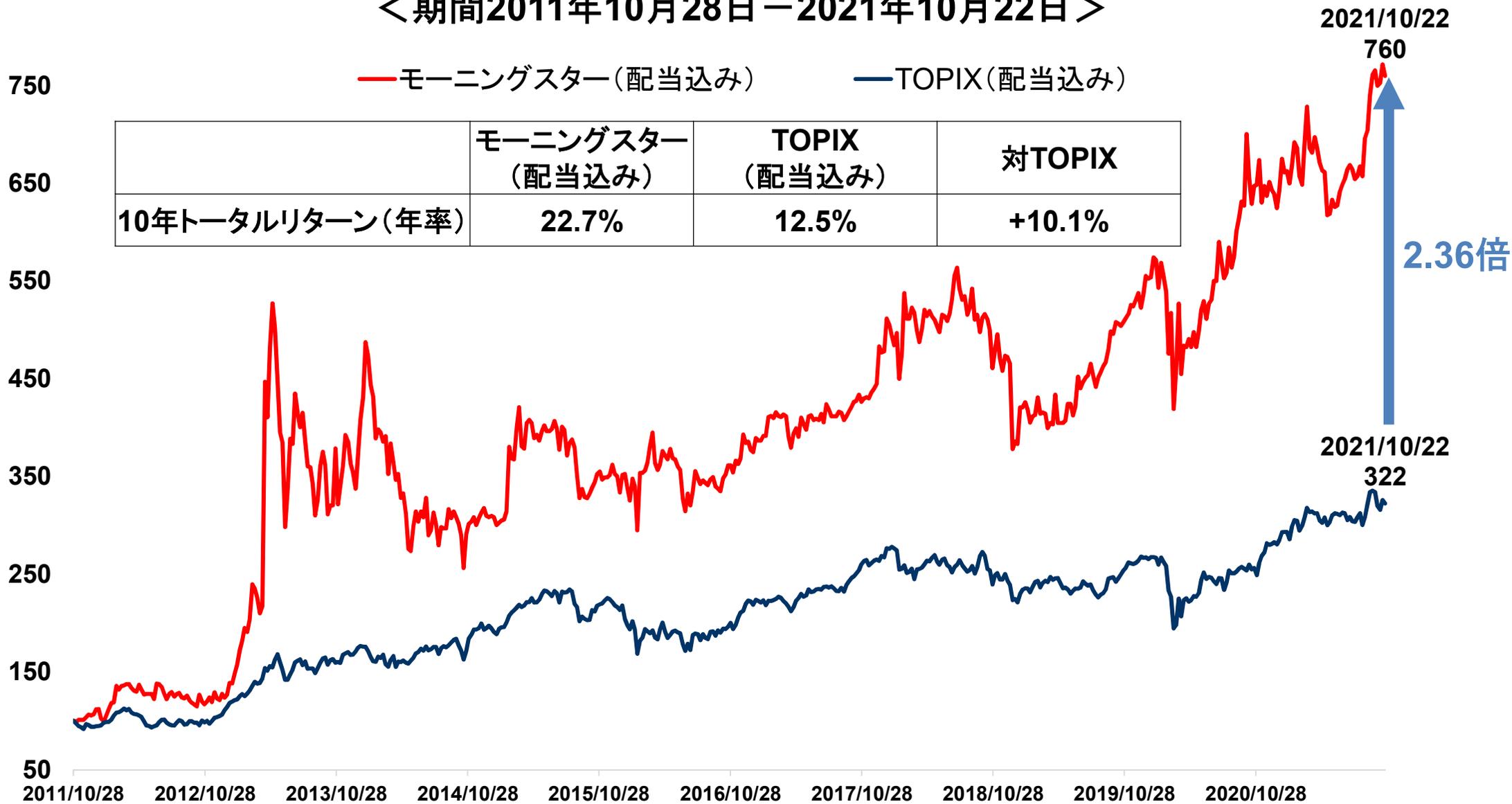


当社の過去10年の株価(配当込み)は年率22.7%の伸び

＜期間2011年10月28日－2021年10月22日＞

—モーニングスター(配当込み) —TOPIX(配当込み)

	モーニングスター (配当込み)	TOPIX (配当込み)	対TOPIX
10年トータルリターン(年率)	22.7%	12.5%	+10.1%



※ 2011年10月28日を100として指数化
出所:モーニングスター作成

株主還元積極的に取り組み、株主数は大幅に増加

当社株主数の推移

